Your Reliable Partner

NF7 シリーズ

(NF7/NF7-M/NF7-S/NF7-S2/NF7-S2G)

Socket 462 システムボード

ユーザーマニュアル

Rev. 1.01

著作権と補償について

このマニュアルに記載されている内容は、将来予告なく変更される場合があります。本マニュアルの作成には万全を期しておりますが、万一誤りが合った場合はご容赦願います。

本製品の特定用途への適用、品質、または商品価値に関して、明示の有無に関わらず、いかなる保証も行いません。このマニュアルや製品上の表記に誤りがあったために発生した、直接的、間接的、特殊な、また偶発的なダメージについて、いかなる保証も行いません。

このマニュアルに記載されている製品名は識別のみを目的としており、商標および製品名またはブランド名の所有権は各社にあります。

このマニュアルは国際著作権法により保護されています。本書の一部または全部を弊社の文書による許可なく複製または転用することは禁じられています。

マザーボードを正しく設定しなかったことが原因で発生した故障については、弊社では一切の責任を負いかねます。

目　次

第 1 章　はじめに 1-1

1-1.　機能と仕様 1-1

1-2.　レイアウト（NF7/NF7-S） 1-4

1-3.　レイアウト（NF7-M） 1-5

1-4.　レイアウト（NF7-S2/NF7-S2G, Ver. 0.22） 1-6

第 2 章　ハードウェアのセットアップ 2-1

2-1.　マザーボードのインストール 2-1

2-2.　CPU およびヒートシンクの取付け 2-1

2-3.　システムメモリの取付け 2-3

2-4.　コネクタ、ヘッダ、スイッチ 2-4

(1).　ATX 電源入力コネクタ 2-4

(2).　FAN コネクタ 2-5

(3).　CMOS メモリクリアリングヘッダ 2-6

(4).　ウェークアップヘッダ 2-7

(5).　前面パネルのスイッチとインジケータ接続 2-9

(6).　赤外線デバイスヘッダ（NF7/NF7-S/NF7-M） 2-10

(7).　追加 USB ポートヘッダ 2-11

(8).　追加 IEEE1394 ポートヘッダ（NF7-S） 2-12

(9).　前面パネルのオーディオ接続ヘッダ 2-13

(10).　内部オーディオコネクタ 2-15

(11).　加速式グラフィックスポートスロット 2-16

(12).　フロッピーディスクドライブコネクタ 2-17

(13).　IDE コネクタ 2-18

(14).　シリアル ATA コネクタ（NF7-S/NF7-S2/NF7-S2G） 2-20

(15).　ステータスインジケータ 2-21

(16).　システム管理バスヘッダ 2-22

(17).　背面パネルの接続 2-23

第 3 章　BIOS について 3-1

3-1.　SoftMenu Setup 3-2

3-2.　Standard CMOS Features 3-6

3-3. Advanced BIOS Features.....3-10
3-4. Advanced Chipset Features.....3-13
3-5. Integrated Peripherals 3-17
3-6. Power Management Setup 3-26
3-7. PnP/PCI Configurations.....3-29
3-8. PC Health Status 3-33
3-9. Load Fail-Safe Defaults 3-34
3-10. Load Optimized Defaults.....3-34
3-11. Set Password 3-34
3-12. Save & Exit Setup 3-34
3-13. Exit Without Saving.....3-34

付録 A. NVIDIA nForce Chipset ドライバのインストール.....A-1

付録 B. Integrated GPU ドライバのインストール(NF7-M).....B-1

付録 C. USB 2.0 ドライバのインストール.....C-1

付録 D. LAN ドライバのインストール（NF7-S2G）.....D-1

付録 E. シリアル ATA ドライバのインストール(NF7-S).....E-1

付録 F. NVRAID の BIOS セットアップ(NF7-S2/NF7-S2G).....F-1

付録 G. ABIT EQ（Hardware Doctor ユーティリティ）.....G-1

付録 H. FlashMenu（BIOS 更新ユーティリティ）.....H-1

付録 I. トラブルシューティング.....I-1

付録 J. テクニカルサポートの受け方について.....J-1

第 1 章　はじめに

1-1. 機能と仕様

1. CPU

- AMD-K7 Duron/Athlon/Athlon XP/Barton Socket A 200/266/333/400 MHz FSB をサポート

2. チップセット

- MCP を搭載した NVIDIA nForce2 Ultra 400 チップセット ***(NF7)***
- MCP を搭載した NVIDIA nForce2 IGP チップセット ***(NF7-M)***
- MCP-T を搭載した NVIDIA nForce2 Ultra 400 チップセット ***(NF7-S)***
- RAID MCP を搭載した NVIDIA nForce2 Ultra 400 チップセット ***(NF7-S2/NF7-S2G)***
- 統合された 128 ビットメモリコントローラ
- 電力制御インターフェイス（Advanced Configuration and Power Interface）（ACPI）をサポート
- 加速式ポートコネクタが AGP 8X/4X インターフェイス(0.8V/1.5V)をサポート

3. デュアル DDR

- デュアル DDR アーキテクチャは、2 つの独立した 64 ビットメモリコントローラを結合します
- デュアル DDR 400 は、システムメモリ用に 6.4GB/s までのバンド幅を提供します

4. メモリ

- 3 つの 184-ピン DIMM ソケット
- 3 つの DIMM DDR 200/266/333 をサポート（最大 3GB）
- 2 つの DIMM DDR 400 をサポート（最大 2GB）
- アドオン VGA カードを使用しているときのみ、DDR 400 をサポートします ***(NF7-M)***

5. オーディオ

- オンボードの 6 チャンネル AC 97 CODEC
- プロフェッショナルデジタルオーディオインターフェイスは、光 S/PDIF 出力をサポートします ***(NF7/NF7-S/NF7-M)***
- リアルタイム Dolby Digital 5.1 エンコーダを搭載した NVIDIA SoundStorm™ テクノロジ ***(NF7-S)***

6. LAN

- オンボードの 10/100M LAN コントローラ ***(NF7/NF7-S/NF7-M/NF7-S2)***
- オンボードの 10/100/1000M LAN コントローラ ***(NF7-S2G)***

7. ABIT Engineered

- ABIT SoftMenu™ テクノロジ
- ABIT FanEQ™ テクノロジ
- ABIT CPU ThermalGuard™ テクノロジ
- ABIT FlashMenu™

8. 内部 I/O コネクタ

- 1x AGP 8X/4X スロット
- 5x PCI スロット
- 1x フロッピーポートが 2.88MB までサポート
- 2x Ultra DMA 33/66/100/133 コネクタ
- 1x USB 2.0 ヘッダ
- 1x CD-IN
- 1x IrDA ***（NF7/NF7-S/NF7-M）***
- 2x IEEE 1394a ヘッダ ***（NF7-S）***
- 2x SATA 150 コネクタ ***（NF7-S/NF7-S2/NF7-S2G）***

9. 背面パネル I/O

- 1x PS/2 キーボード、1x PS/2 マウス
- オーディオコネクタ（フロントスピーカー、ラインイン、 Mic-イン、 センター/サブ、サラウンドスピーカー）
- 1x S/PDIF アウトコネクタ ***（NF7/NF7-S/NF7-M）***
- 1x シリアルポートコネクタ, 1x パラレルポートコネクタ ***（NF7-S2/NF7-S2G）***
- 2x シリアルポートコネクタ, 1x パラレルポートコネクタ ***（NF7/NF7-S）***
- 1x シリアルポートコネクタ, 1x パラレルポートコネクタ,
  1 x VGA コネクタ ***（NF7-M）***
- 4x USB、1x RJ-45 LAN コネクタ ***（NF7-S2/NF7-S2G）***
- 2x USB、1x RJ-45 LAN コネクタ ***（NF7/NF7-S/NF7-M）***

10. SATA 150 RAID *（NF7-S/NF7-S2/NF7-S2G）*

- オンボード Silicon Image Sil 3112A SATA PCI コントローラ ***（NF7-S）***
- SATA 150 NV RAID をサポート ***（NF7-S2/NF7-S2G）***
- サウスブリッジを介して RAID 機能（0/1）を使用する 2 チャネルのシリアル ATA 150MB/秒のデータ転送速度

11. IEEE 1394 *（NF7-S）*

- 400/200/100 Mb/秒のデータ転送速度で IEEE 1394a をサポート

12. グラフィックス *（NF7-M）*

- 統合された NVIDIA GeForce4 MX クラスのグラフィックスプロセッサ

13. その他

- ATX フォームファクタ
- ハードウェア監視 – ファン速度、電圧、CPU とシステム温度および他のデバイス温度監視用のサーマルヘッダを含む

14. オーダー情報

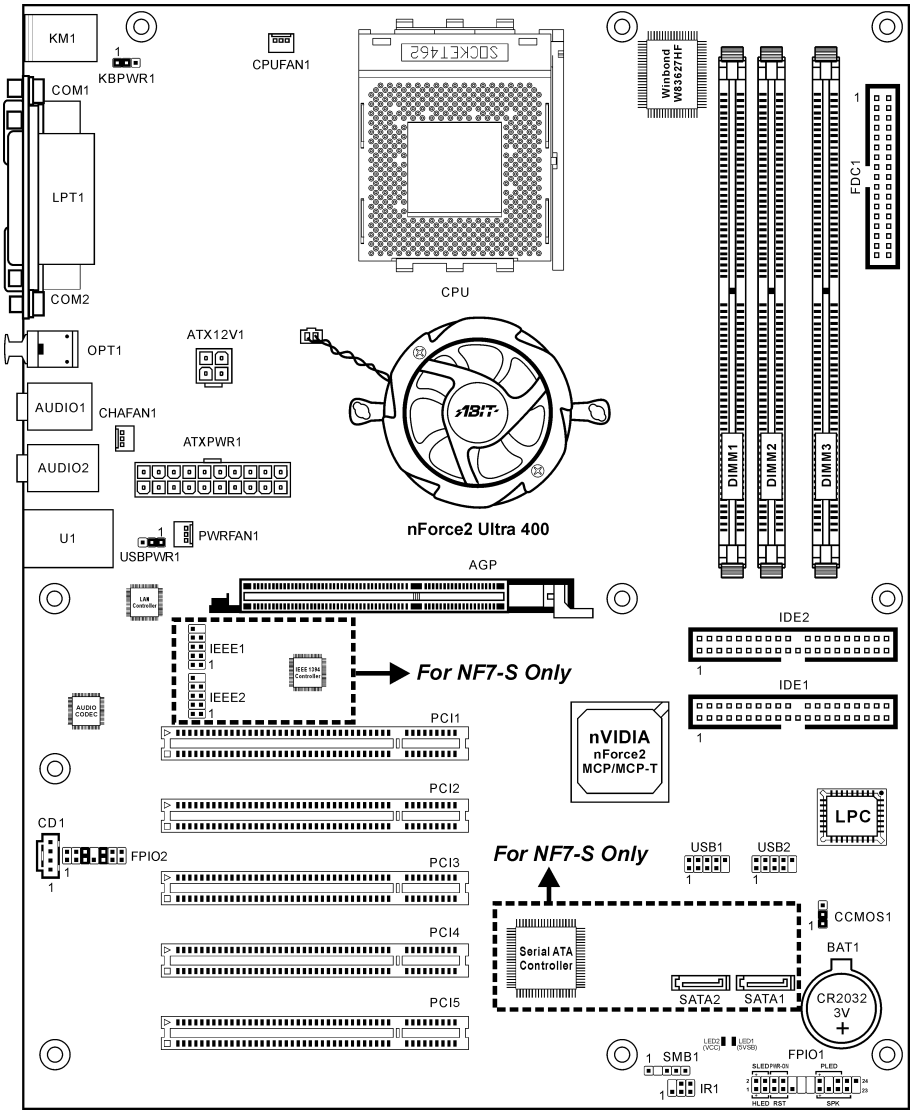
モデル	チップセット	機能
NF7-S	nForce2 Ultra 400 + MCP-T	SATA RAID, IEEE1394, 6-ch Audio with SoundStorm™, S/PDIF Out, 10/100M, SERILLEL2
NF7	nForce2 Ultra 400 + MCP	10/100M, 6-ch Audio, S/PDIF Out
NF7-M	nForce2 IGP + MCP	Integrated GeForce4 MX, 10/100M, 6-ch Audio, S/PDIF Out
NF7-S2	nForce2 Ultra 400 + RAID MCP	NV SATA RAID, 6-ch Audio, 10/100M
NF7-S2G	nForce2 Ultra 400 + RAID MCP	NV SATA RAID, 6-ch Audio, GbE

❋ シリアル **ATA** コントローラは、**Ultra DMA/ATA100** 以上のハードドライブのみをサポートします。この仕様以下のハードドライブでは機能しないので、使用しないでください。

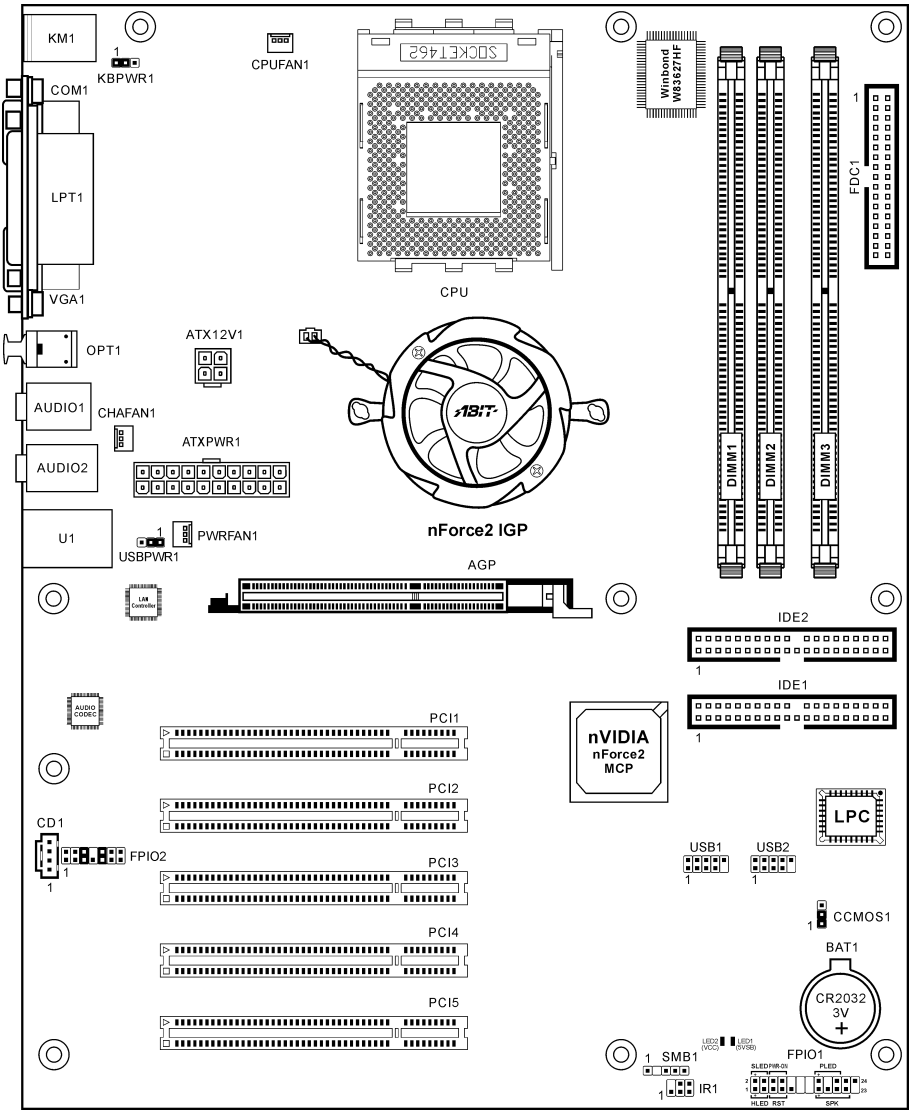
❋ このマザーボードは **100/66/33MHz** の標準バス速度をサポートし、特定の **PCI**、プロセッサおよびチップセット仕様により使用されています。これらの標準バス速度以上の速度は、固有コンポーネント仕様が原因で保証されていません。

❋ 本書に記載されている仕様および情報は予告なしに変更されることがあります。

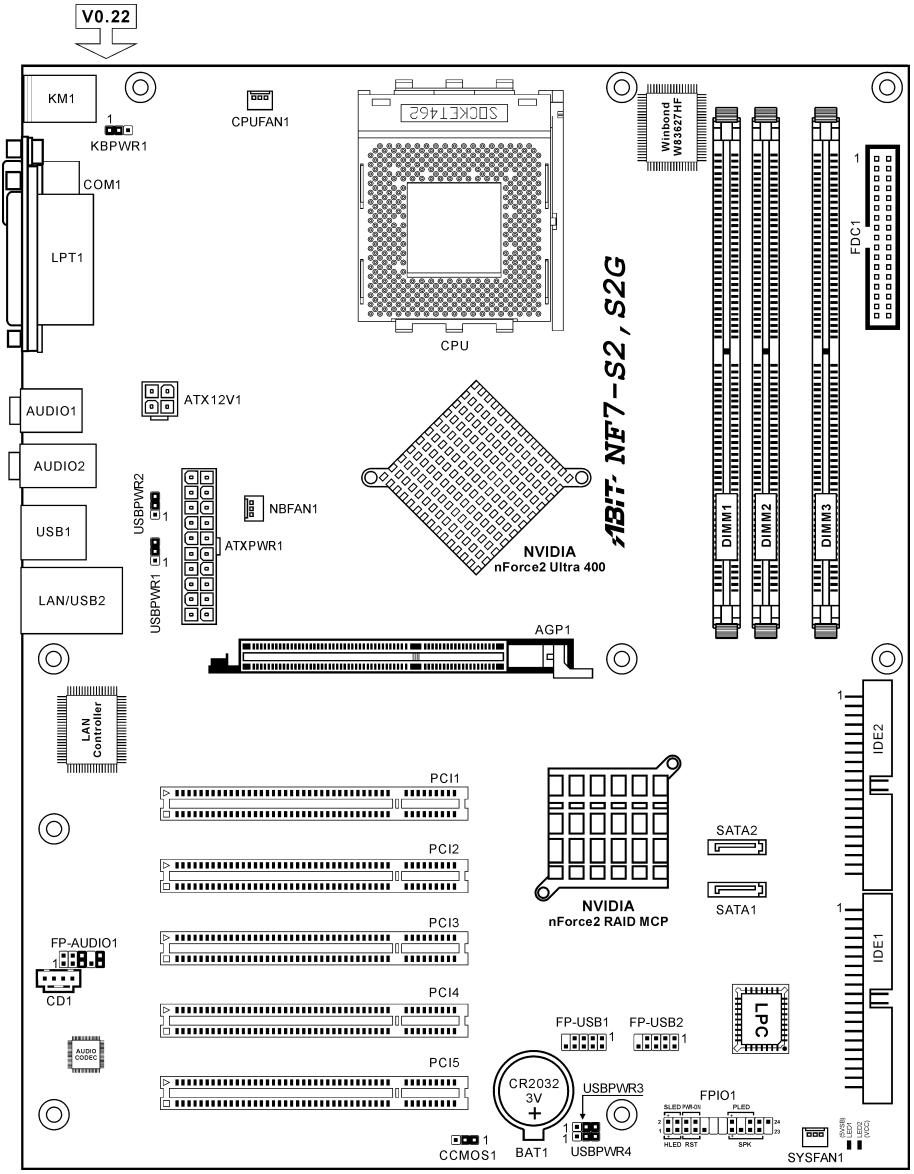
1-2. レイアウト（NF7/NF7-S）



1-3. レイアウト（NF7-M）



1-4. レイアウト（NF7-S2/NF7-S2G, Ver. 0.22）

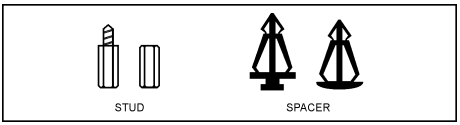


第 2 章　ハードウェアのセットアップ

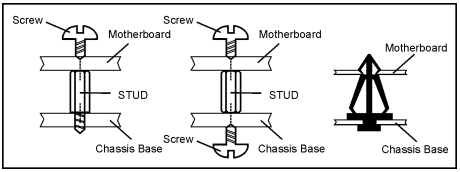
取付けを開始する前に：ATX12V の電源装置のスイッチをオフにする(+5V スタンバイ電源を完全にオフにする)、または取り付ける前に電源コードを外す、またはコネクタやアドオンカードのプラグを抜く、以上のことを忘れないでください。さもないと、マザーボードコンポーネントまたはアドオンカードが故障したり破損する可能性があります。

2-1. マザーボードのインストール

ほとんどのコンピュータシャーシには、マザーボードを安全に固定し、同時に回路のショートを防ぐ多数の穴のあいた基板があります。マザーボードをシャーシの基板に固定するには次の 2 つの方法があります。



1. スタッドを使用する
2. スペーサーを使用する



原則的に、マザーボードを固定する最善の方法はスタッドを使用することです。スタッドを使用できない場合にのみ、スペーサーを使ってボードを固定してください。マザーボードを注して見ると、多くの取り付け穴が空いているのがわかります。これらの穴を基板の取り付け穴の位置に合わせてください。位置をそろえた時にネジ穴ができたら、スタッドとネジでマザーボードを固定できます。位置をそろえてもスロットしか見えない時は、スペーサーを使ってマザーボードを固定します。スペーサーの先端をもってスロットに挿入してください。スペーサーをすべてのスロットに挿入し終えたら、マザーボードをスロットの位置に合わせて挿入してください。マザーボードを取り付けたら、すべてに問題がないことを確認してからコンピュータのケースをかぶせてください。

注意：PCB サーキットのショートを防ぐために、金属製ボルトとスペーサがすでにシャーシ台にしっかり取り付けられ、マザーボード上に一直線に合うような取り付け穴がない場合、それらのボルトとスペーサを取り外してください。

2-2. CPU およびヒートシンクの取付け

注意

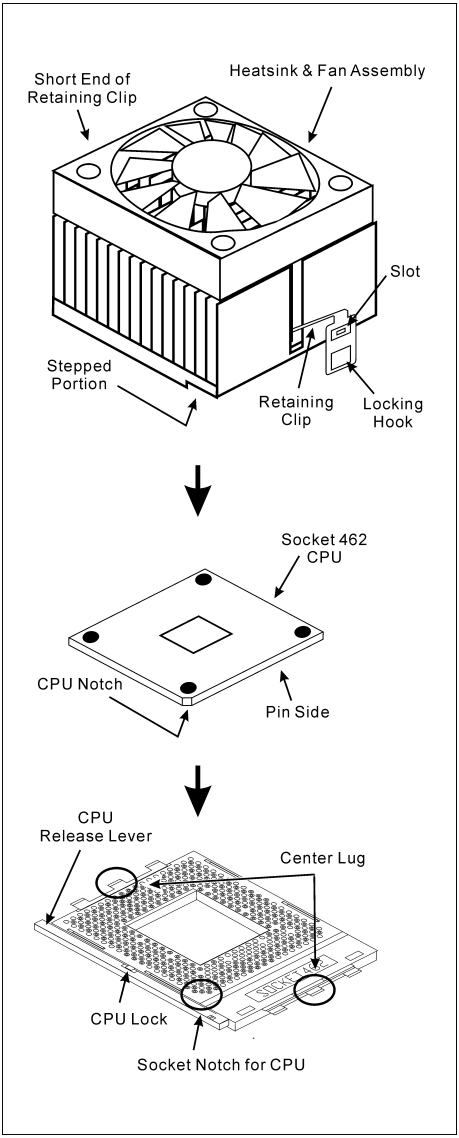
- プロセッサから熱を放散させるために、ヒートシンクと冷却ファンの取り付けが必要となります。これらのアイテムを取り付けないと、プロセッサが加熱して故障する原因となります。
- AMD Socket A プロセッサは操作中にかなりの熱を発生するため、このプロセッサ用に特別に設計された大型のヒートシンクを使用する必要があります。さもなければ、加熱して、プロセッサが破損する可能性があります。

- プロセッサファンとその電源ケーブルが正しく取り付けられていない場合、ATX 電源ケーブルをマザーボードに絶対に接続しないでください。これで、プロッセサの破損を防ぐことができます。
- 取り付けの支持に関する詳細情報は、プロセッサの取り付けマニュアル、またはプロセッサに付属するその他のドキュメントをご覧ください。

このマザーボードは ZIF（ゼロインサーションフォース）Socket 462 を提供して AMD Socket A CPU をインストールします。お買い上げになった CPU には、ヒートシンクと冷却ファンのキットが付属しています。付属していない場合、Socket A 向けに特別に設計されたキットをお求めください。

ここに示した図を参照して、CPU とヒートシンクを取り付けます（この図は参照専用です。お使いのヒートシンクとファンアセンブリはこの図と異なっていることがあります）。

1. このマザーボードの Socket 462 を探します。CPU のリリースレバーを横に引っ張って掛け金を外し、上まで引き上げます。
2. CPU のノッチを CPU のソケットのノッチに合わせます。そのピンの横側を下にして CPU のソケットに差し込みます。CPU に差し込むときに無理な力を入れないでください。ピンは一方向にだけフィットするようになっています。CPU のリリースレバーを閉じます。
3. ヒートシンクのプラスチックフィルム接着剤をはがします。ヒートシンクの段のある部分が“Socket 462”の文字のある側を向いていることを確認してください。ヒートシンクの面を下にして、プロセッサを完全に覆うまで降ろします。
4. まず支持クリップの短い方の端を押し下げて、ソケット下部のセンターラグに固定します。
5. ネジ回しを使用して、支持クリップの長い方の端のスロットに差し込みます。クリップを押し下げて、ソケット上部のセンターラグに固定します。これで、ヒートシンクとファンアセンブリが CPU のソケットにしっかり取り付けられました。
6. ヒートシンクとファンアセンブリのファンコネクタを、マザーボードのファンコネクタに取り付けます。



注意 : プロセッサに対して、正しいバス周波数とマルチプルに設定することを忘れないでください。

2-3. システムメモリの取付け

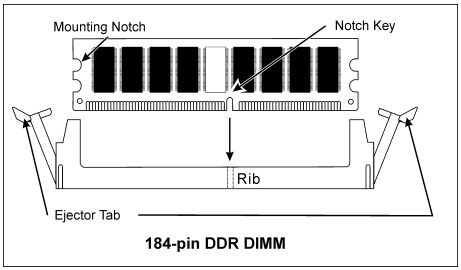
このマザーボードにはメモリ拡張用に 3 つの 184 ピン DDR DIMM サイトが搭載されており、64MB から最大 3GB まで拡張することができます。

表 2-1. メモリ設定の例

バンク	メモリモジュール	合計
Bank 0, 1 (DIMM1)	64, 128, 256, 512MB, 1GB	64MB ~ 1GB
Bank 2, 3 (DIMM2)	64, 128, 256, 512MB, 1GB	64MB ~ 1GB
Bank 4, 5 (DIMM3)	64, 128, 256, 512MB, 1GB	64MB ~ 1GB
バッファなしおよび非 ECC DDR 200/266/333 DIMM 用の総システムメモリ		64MB ~ 3GB
バッファなしおよび非 ECC DDR 400 DIMM 用の総システムメモリ		64MB ~ 2GB

注意 : DDR SDRAM モジュールを DIMM3 から DIMM1 までのソケットに順番に差し込むことをお勧めします。

メモリモジュールの取り付け/取り外しを行う前に、コンピュータの電源をオフにして AC 電源コードを抜いてください。



1. ボードの DIMM スロットを探します。
2. DIMM モジュールのコネクタに触らないようにしながら、その両端をそっと持ちます。
3. モジュールのノッチキーをスロットのリブに合わせます。
4. モジュールをスロットにしっかり押すと、スロットの両側のイジェクタタブが取り付けノッチにカチッと音を立てて自動的に固定されます。DIMM モジュールを差し込むときに無理な力を入れないでください。DIMM モジュールは一方向にだけフィットするようになっています。
5. DIMM モジュールを取り外すには、スロットの 2 つのイジェクタタブを同時に外側に押してから、DIMM モジュールを取り出します。

注意 : 静電気はコンピュータの電気コンポーネントやオプションのボードを破損する恐れがあります。これらの手順を開始する前に、アースされた金属物質に軽く触れることで、静電気を確実に放電してください。

2-4. コネクタ、ヘッダ、スイッチ

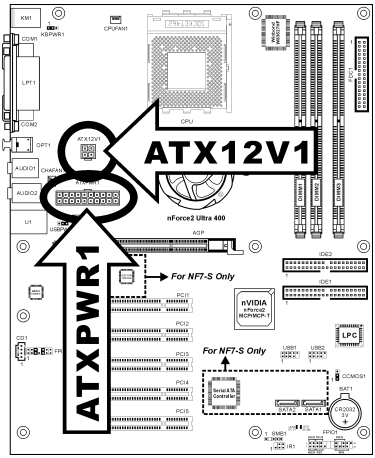
ここには、コネクタ、ヘッダ、スイッチと、その接続方法が全て表示されています。コンピュータのシャーシ内に全てのハードウェアを取り付ける前に、全ての項を読んで必要な情報を頭に入れてください。参照のために、ボード上のコネクタとヘッダの全ての位置に対応する完全な拡大配置図を第 1 章に示します。

警告 : 周辺機器やコンポーネントを追加したり取り外す前に、必ずコンピュータの電源をオフにしてから、AC アダプタのプラグを抜いてください。さもなければ、マザーボードや周辺機器が重大な損害をこうむることもあります。全てを十分にチェックした後で、AC 電源コードのプラグを差し込んでください。

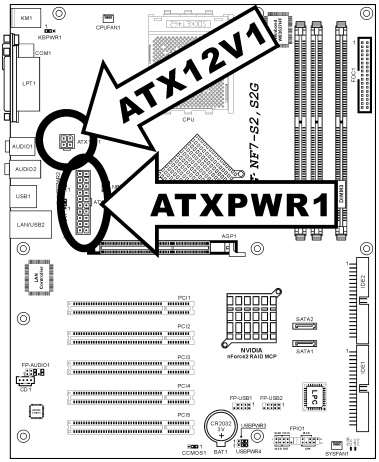
(1). ATX 電源入力コネクタ

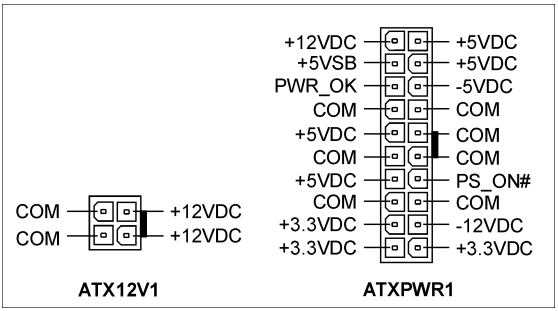
このマザーボードは 2 つの電源コネクタを提供して ATX12V 電源装置に接続します。

NF7/NF7-S/NF7-M:



NF7-S2/NF7-S2G:





注 : 負荷の重いシステムの場合は、少なくとも 350W、20A +5VDC 容量の、呼び起こし機能をサポートする場合は、少なくともお 2A +5VSB 容量の電源装置に接続するようにお勧めします。

(2). FAN コネクタ

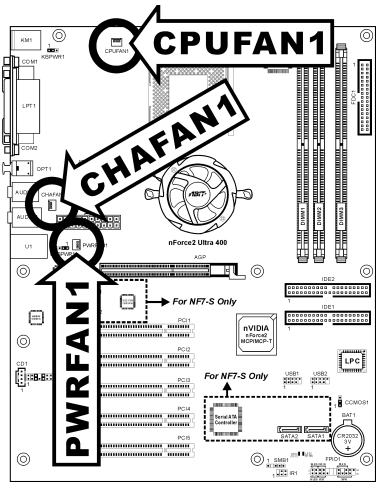
これらの 3 ピンコネクタはそれぞれ、システムに取り付けられたクーリングファンに電源を供給します。

CPU は、ヒートシンクを装備した強力なファンにより冷却される必要があります。システムは、CPU ファンの速度を監視することができます。

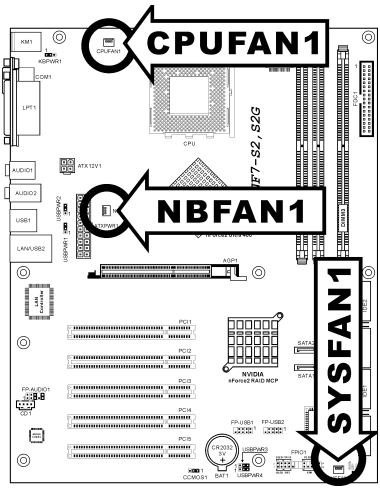
- **CPUFAN1 :** CPU ファン
- **CHAFAN1/SYSFAN1 :** システムファン
- **PWRFAN1 :** 補助ファン（**NF7/NF7-S/NF7-M**）
- **NBFAN1 :** チップセットファン（**NF7-S2/NF7-S2G**）

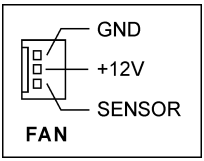
警告 : これらのファンコネクタはジャンパではありません。これらのコネクタにジャンパキャップをかぶせないでください。

NF7/NF7-S/NF7-M:



NF7-S2/NF7-S2G:





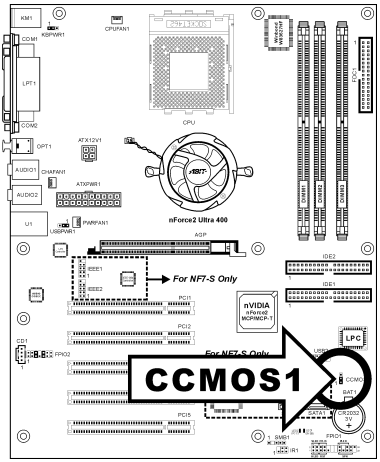
(3). CMOS メモリクリアリングヘッダ

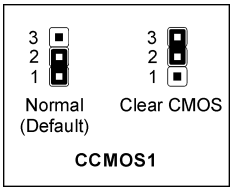
この CCMOS1 ヘッダはジャンパキャップを使用して、CMOS メモリを消去します。

- **ピン 1-2 ショート（デフォルト）：**標準操作。
- **ピン 2-3 ショート：**CMOS メモリの消去。

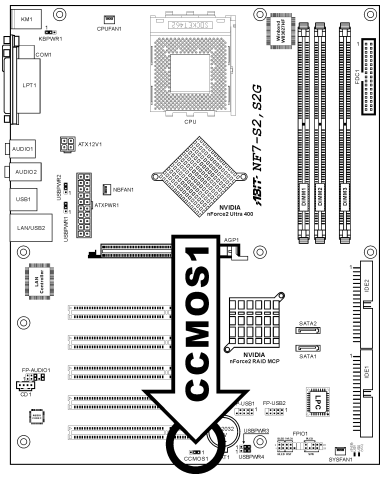
警告：CMOS メモリをクリーニングする前に、まず(+5V スタンバイ電源を含め)電源をオフにしてください。さもなければ、システムが異常な動作を引き起こしたり故障する可能性があります。

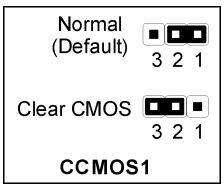
NF7/NF7-S/NF7-M:





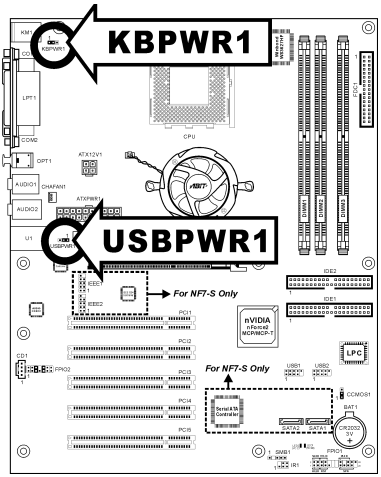
NF7-S2/NF7-S2G:

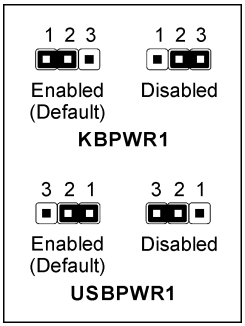




(4). ウェークアップヘッダ

NF7/NF7-S/NF7-M:

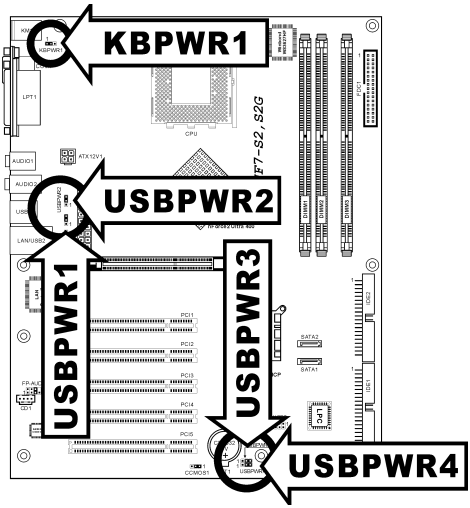


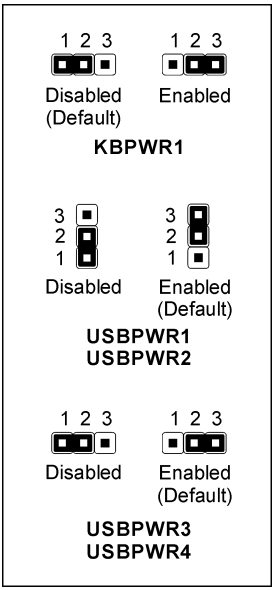


- **KBPWR1：**
  ピン 1-2 ショート（デフォルト）：キーボード/マウスポートでのウェークアップ機能のサポートを有効にします。
  ピン 2-3 ショート：キーボード/マウスポートでのウェークアップ機能のサポートを無効にします。

- **USBPWR1：**
  ピン 1-2 ショート（デフォルト）：USB1 ポートでのウェークアップ機能を有効にします。
  ピン 2-3 ショート：USB1 ポートでのウェークアップ機能を無効にします。

NF7-S2/NF7-S2G (Ver. 0.22):





- **KBPWR1：**
  ピン 1-2 ショート（デフォルト）：キーボード/マウスポートでのウェークアップ機能のサポートを無効にします。
  ピン 2-3 ショート：キーボード/マウスポートでのウェークアップ機能のサポートを有効にします。

- **USBPWR1：**
  ピン 1-2 ショート：USB2 ポートでのウェークアップ機能を無効にします。
  ピン 2-3 ショート（デフォルト）：USB2 ポートでのウェークアップ機能を有効にします。

- **USBPWR2：**
  ピン 1-2 ショート：USB1 ポートでのウェークアップ機能を無効にします。
  ピン 2-3 ショート（デフォルト）：USB1 ポートでのウェークアップ機能を有効にします。

- **USBPWR3：**
  ピン 1-2 ショート：FP-USB1 ポートでのウェークアップ機能を無効にします。
  ピン 2-3 ショート（デフォルト）：FP-USB1 ポートでのウェークアップ機能を有効にします。

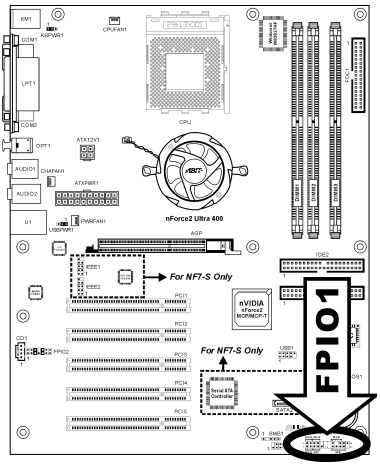
- **USBPWR4：**
  ピン 1-2 ショート：FP-USB2 ポートでのウェークアップ機能を無効にします。
  ピン 2-3 ショート（デフォルト）：FP-USB2 ポートでのウェークアップ機能を有効にします。

(5). 前面パネルのスイッチとインジケータ接続

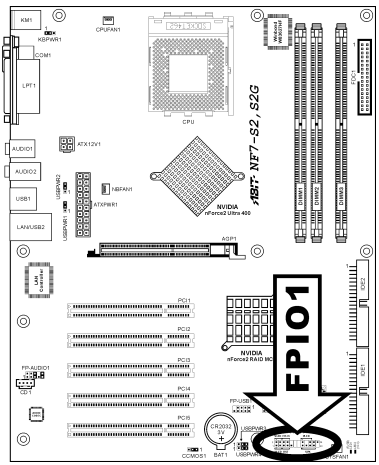
このヘッダは、スイッチと LED インジケータをシャーシ前面パネルに接続するために使用されます。

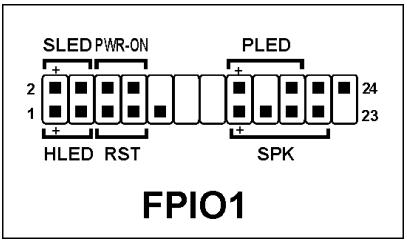
電源 LED のピン位置と方向に注してください。下図のピンに一直線に並んでいる“+”のマークは、LED 接続のプラス極を表します。これらのヘッダに間違いなく接続してください。方向を逆に接続しても LED が点灯しないだけのことですが、スイッチの間違った接続はシステムの故障の原因となることがあります。

NF7/NF7-S/NF7-M:



NF7-S2/NF7-S2G:

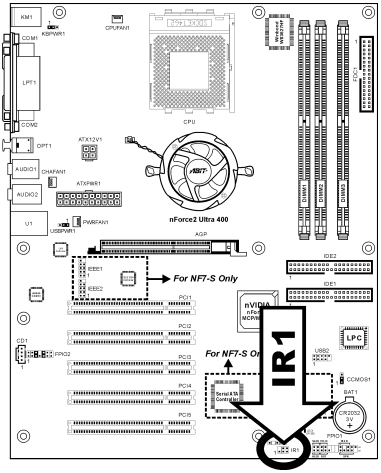


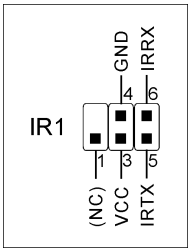


- **HLED（ピン 1、3）：**
  シャーシ前面パネルの HDD LED ケーブルに接続します。
- **RST（ピン 5、7）：**
  シャーシ前面パネルのリセットスイッチケーブルに接続します。
- **SPK（ピン 15、17、19、21）：**
  シャーシのシステムスピーカーケーブルに接続します。
- **SLED（ピン 2、4）：**
  シャーシ前面パネルのサスペンド LED ケーブル（もしあれば）に接続します。
- **PWR-ON（ピン 6、8）：**
  シャーシフロントパネルの電源スイッチケーブルに接続します。
- **PLED（ピン 16、18、20）：**
  シャーシフロントパネルの電源 LED ケーブルに接続します。

(6). 赤外線デバイスヘッダ（NF7/NF7-S/NF7-M）

このヘッダは、シャーシに接続されたオプションの IR デバイスに接続します。このマザーボードは標準の IR 転送速度をサポートします。

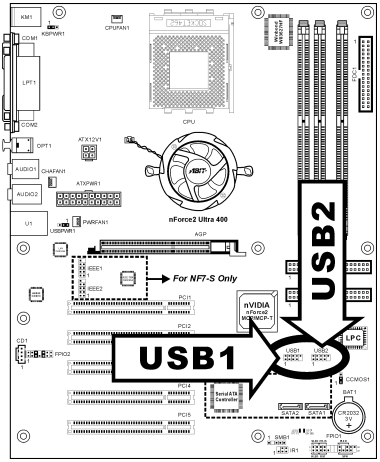




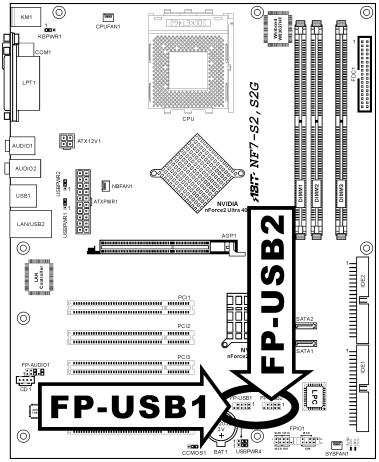
(7). 追加 USB ポートヘッダ

これらのヘッダはそれぞれ、USB 2.0 仕様に対して設計された USB ケーブルを通して、2 つの追加 USB 2.0 ポート接続を提供します。

NF7/NF7-S/NF7-M:



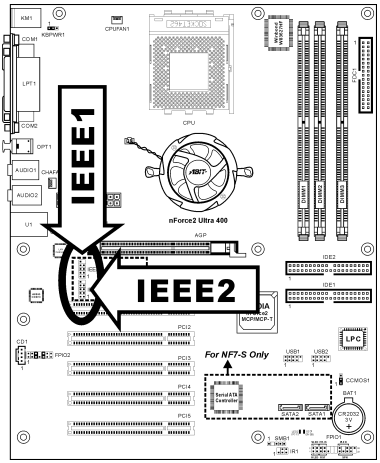
NF7-S2/NF7-S2G:

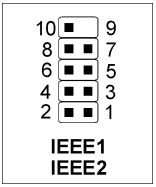


NF7/NF7-S/NF7-M	NF7-S2/NF7-S2G	ピン	割り当て	ピン	割り当て
2 4 6 8 10 1 3 5 7 9 USB1 USB2	9 7 5 3 1 10 8 6 4 2 FP-USB1 FP-USB2	1	VCC	2	VCC
		3	Data0 -	4	Data1 -
		5	Data0 +	6	Data1 +
		7	アース	8	アース
		9	NC	10	NC

(8). 追加 IEEE1394 ポートヘッダ（NF7-S）

これらのヘッダはそれぞれ、延長ケーブルとブラケットを通して、1 つの追加 IEEE1394 ポート接続を提供します。





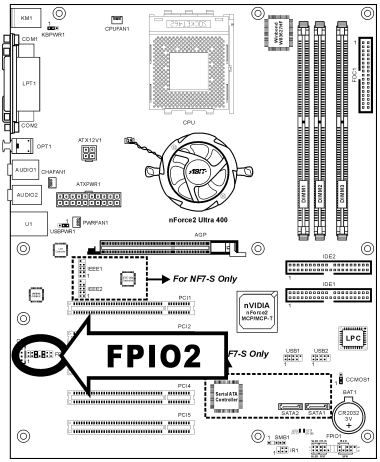
ピン	割り当て	ピン	割り当て
1	TPA0 +	2	TPA0 -
3	アース	4	アース
5	TPB0 +	6	TPB0 -
7	+12V	8	+12V
9	NC	10	アース

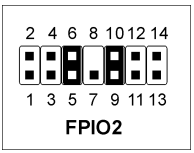
(9). 前面パネルのオーディオ接続ヘッダ

このヘッダは、フロントパネルでのオーディオコネクタに接続を提供します。

- 前面パネルでオーディオコネクタを使用するには、このヘッダのすべてのジャンパを取り外し、シャーシに付属する延長ケーブルで前面パネルに接続します。
- 背面パネルでオーディオコネクタを使用するには、延長ケーブルを抜き、ピン 5-6、およびピン 9-10 のジャンパを元に戻します（デフォルト設定）。

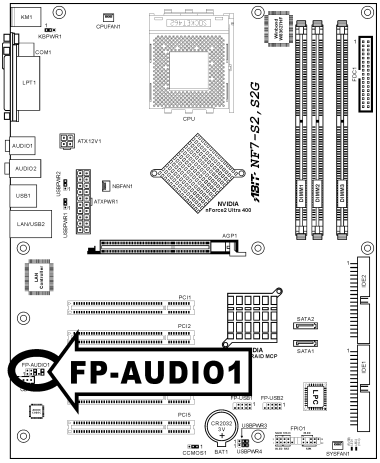
NF7/NF7-S/NF7-M:





ピン	割り当て	ピン	割り当て
1	オーディオ Mic.	2	アース
3	オーディオMic.バイアス	4	VCC
5	スピーカーアウトの右チャネル	6	スピーカーアウトの右チャネルリターン
7	X	8	NC
9	スピーカーアウトの左チャネル	10	スピーカーアウトの左チャネルリターン
11	アース	12	S/PDIF イン
13	VCC	14	S/PDIF アウト

NF7-S2/NF7-S2G:

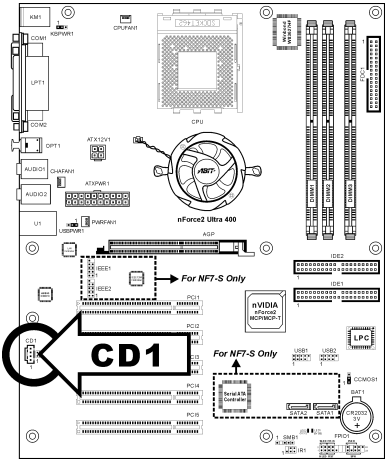


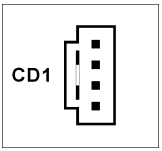
	ピン	割り当て	ピン	割り当て
2 4 6 8 10 1 3 5 7 9 FP-AUDIO1	1	オーディオ Mic.	2	アース
	3	オーディオMic.バイアス	4	VCC
	5	スピーカーアウトの右チャネル	6	スピーカーアウトの右チャネルリターン
	7	X	8	NC
	9	スピーカーアウトの左チャネル	10	スピーカーアウトの左チャネルリターン

(10). 内部オーディオコネクタ

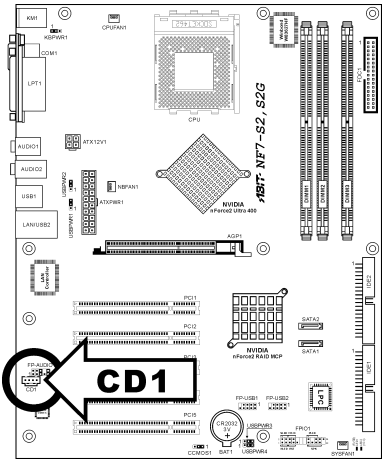
これらのコネクタは、内部 CD-ROM ドライブまたはアドオンカードのオーディオ出力に接続します。

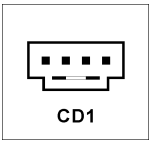
NF7/NF7-S/NF7-M:





NF7-S2/NF7-S2G:



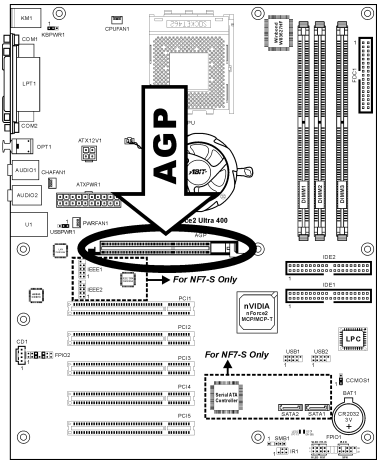


(11). 加速式グラフィックスポートスロット

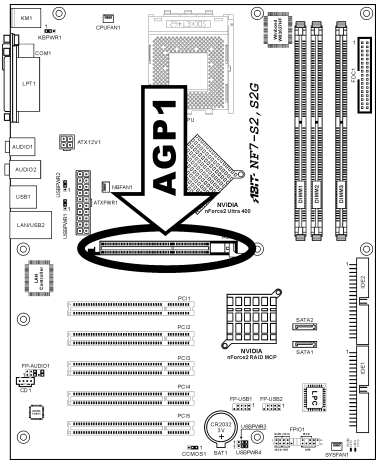
このスロットは、AGP 8X までオプションの AGP グラフィックスカードをサポートします。グラフィックスカードの詳細については、当社の Web サイトを参照してください。

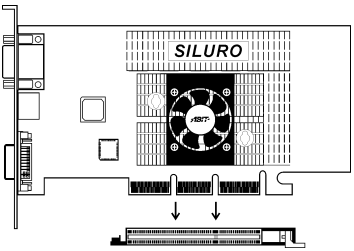
注意：このマザーボードは 3.3V AGP カードをサポートしません。1.5V または 0.8V AGP カードのみをご使用下さい。

NF7/NF7-S/NF7-M:

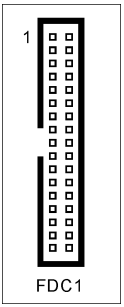


NF7-S2/NF7-S2G:





(12). フロッピーディスクドライブコネクタ

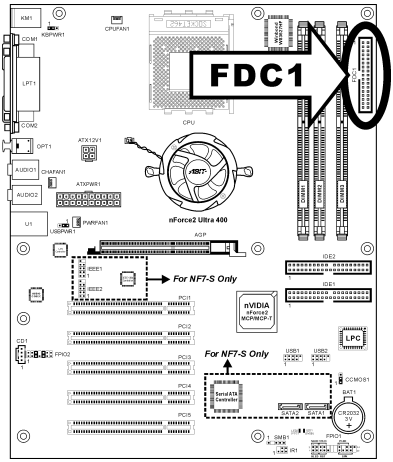


このコネクタは 34 ピン、34 コンダクタリボンケーブルを介して、2 つの標準フロッピーディスクドライブをサポートします。

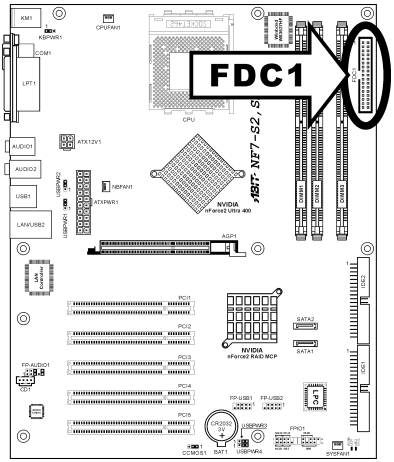
フロッピーディスクドライブのケーブルに接続するには、次の手順を実行します。

1. リボンケーブルの一方の端を FDC1 コネクタに取り付けます。リボンケーブルの着色された端を FDC1 コネクタのピン 1 に合わせます。
2. リボンケーブルのもう一方の端をディスクドライブのコネクタに接続します。リボンケーブルの着色された端もディスクドライブコネクタのピン 1 に合わせます。末端のコネクタを、ドライブ A として指定されたドライブに接続します。

NF7/NF7-S/NF7-M:

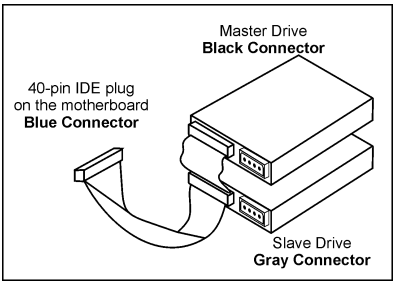


NF7-S2/NF7-S2G:



(13). IDE コネクタ

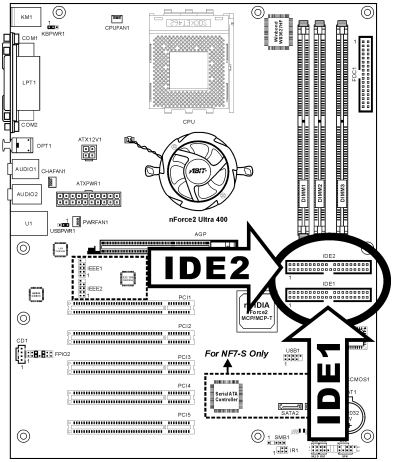
このマザーボボードは 2 つの IDE ポートを提供して、Ultra ATA 66 リボンケーブルにより、Ultra DMA モードで最大 4 基の IDE ドライブに接続します。各ケーブルは 40 ピン 80 コンダクタと 3 つのコネクタを備え、マザーボードに 2 基のハードドライブを接続できるようになっています。長い方のリボンケーブルの 1 本の端を(青いコネクタ)をマザーボードの IDE ポートに接続し、短い方のリボンケーブルのほかの 2 本の端(グレーおよび黒のコネクタ)をハードドライブのコネクタに接続します。

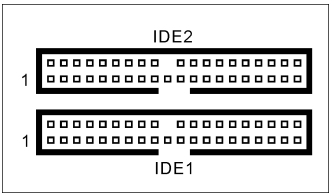


2 台のハードドライブを 1 つの IDE チャネルを通して一緒に接続するには、最初のドライブをマスタに構成してから 2 番目のドライブをスレーブモードに構成する必要があります。ジャンパ設定については、ドライブのマニュアルを参照してください。IDE1 に接続された最初のドライブは通常「プライマリマスタ」と呼ばれ、2 番目のドライブは「プライマリスレーブ」と呼ばれます。IDE2 に接続された最初のドライブは「セカンダリタスタ」と呼ばれ、2 番目のドライブは「セカンダリスレーブ」と呼ばれます。

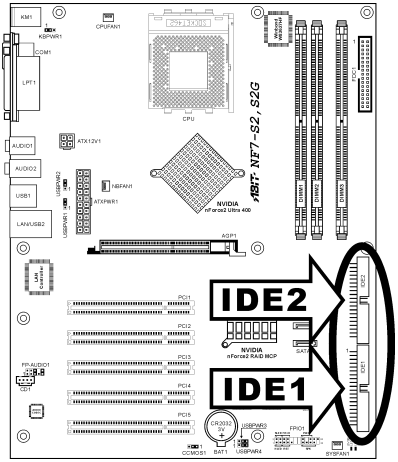
CD-ROM のような従来の速度の遅いドライブを同じ IDE チャネルに接続すると、システム全体の性能が落ちることになるので、避けてください。

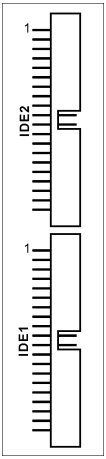
NF7/NF7-S/NF7-M:





NF7-S2/NF7-S2G:

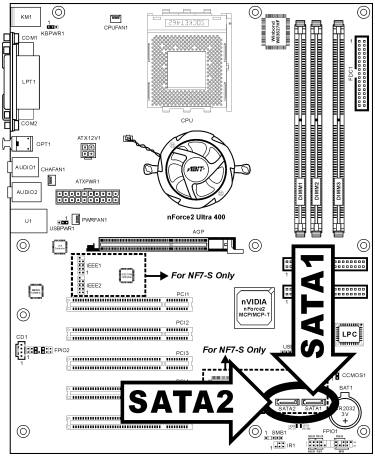


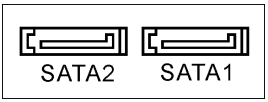


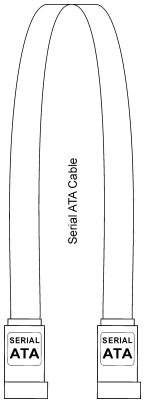
(14). シリアル ATA コネクタ（NF7-S/NF7-S2/NF7-S2G）

これらのコネクタは、Serial ATA ケーブル経由で各チャネル毎に 1 つの Serial ATA デバイスを接続するために用意されています。

NF7-S:

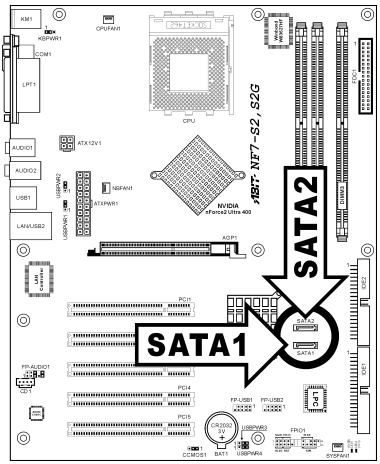


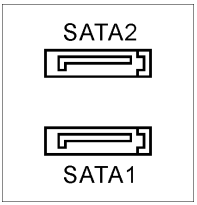




SATA1 と SATA2 は Silicon Image PCI チップによってコントロールされます。SATA1 および SATA2 のコントローラを有効にするには、「Onboard PCI Device」の BIOS メニュー で「Serial ATA Controller」を有効(初期設定)にしておく必要があります。

NF7-S2/NF7-S2G:



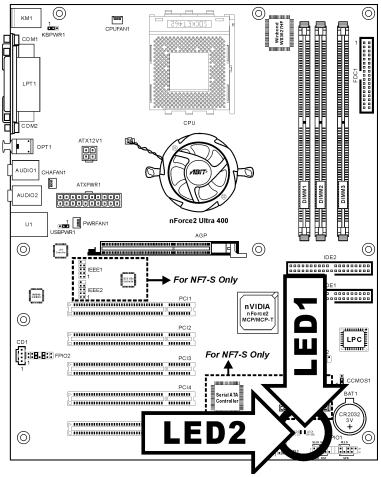


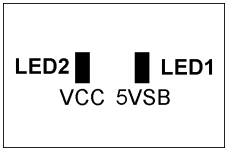
SATA1 と SATA2 は、サウスブリッジによってコントロールされます。SATA1 および SATA2 のコントローラを有効にするには、「OnChip PCI Device」の BIOS メニュー で「Serial ATA」を有効(初期設定)にしておく必要があります。

(15). ステータスインジケータ

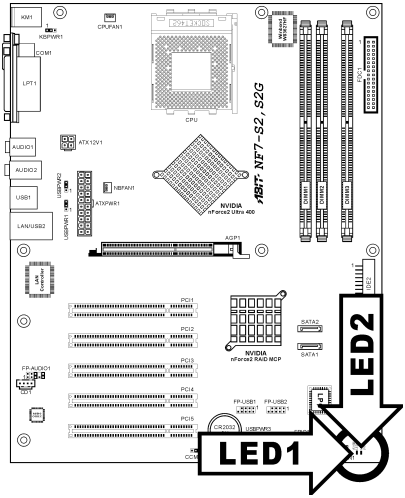
- **LED1 (5VSB):** この LED は、電源装置が電源に接続されているときに点灯します。
- **LED2 (VCC):** この LED は、システムの電源がオンになっているときに点灯します。

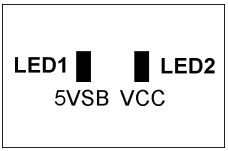
NF7/NF7-S/NF7-M:





NF7-S2/NF7-S2G:

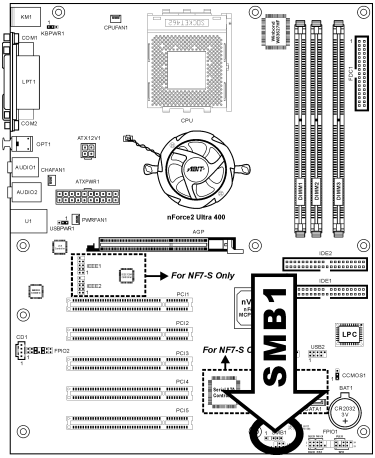


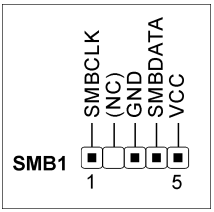


(16). システム管理バスヘッダ

このヘッダは、システム管理バス(SM バス)用に用意されています。SM バスは I^2C バスを特殊に変更したものです。I^2C はマルチマスタバスですが、これは複数のチップを同じバスに接続し、それぞれのチップをデータ転送を初期化することによってマスタとして機能できるようにすることを意味します。複数のマスタが同時にバスをコントロールしようとすると、仲裁手順がどのマスタに優先権を与えるかを決定します。

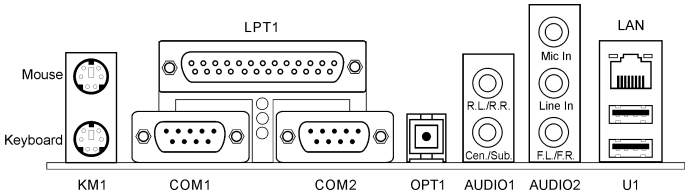
NF7/NF7-S/NF7-M:



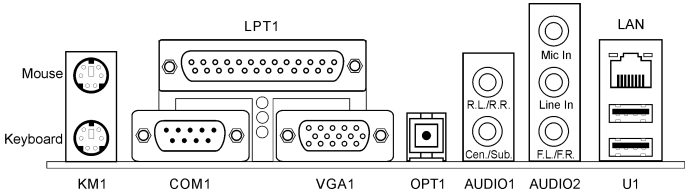


(17). 背面パネルの接続

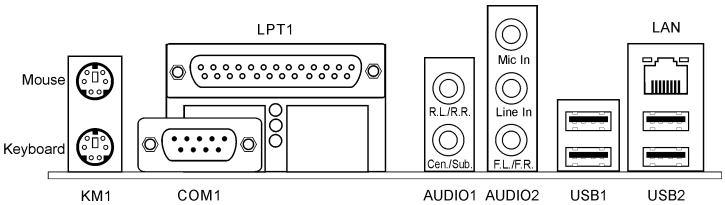
NF7/NF7-S:



NF7-M:



NF7-S2/NF7-S2G:



- **マウス：**PS/2 マウスに接続します。
- **キーボード：**PS/2 キーボードに接続します。
- **LPT1：**この通信プロトコルをサポートするプリンタやその他のデバイスに接続します。
- **COM1：**この通信プロトコルをサポートする外部モデム、マウスまたはその他のデバイスに接続します。
- **COM2：**この通信プロトコルをサポートする外部モデム、マウスまたはその他のデバイスに接続します。**(NF7/NF7-S)**
- **VGA1：**モニターの入力に接続する。**(NF7-M)**
- **OPT1：**このコネクタは、光ファイバを通してデジタルマルチメディアデバイスへの S/PDIF アウト接続を提供します。**(NF7/NF7-S/NF7-M)**

- **AUDIO1：**
  R.L./R.R.（背面左 / 背面右）：5.1 チャネルのオーディオシステムの背面左および背面右チャネルに接続します。
  Cen./Sub.（センター / サブウーファ）：5.1 チャネルのオーディオシステムのセンターおよびサブウーファチャネルに接続します。

- **AUDIO2：**
  Mic In：外部マイクからプラグに接続します。
  Line In：外部オーディオソースからラインアウトに接続します。
  F.L./F.R.（前面左 / 前面右）：5.1 チャネルまたは通常の 2 チャネルオーディオシステムの前面左と前面右チャネルに接続します。

- **LAN：**構内通信網（LAN）に接続します。

- **U1/USB1/USB2（USB ポートコネクタ）：**スキャナ、デジタルスピーカー、モニタ、マウス、キーボード、ハブ、デジタルカメラ、ジョイスティックなどの USB デバイスに接続します。

第 3 章　BIOS について

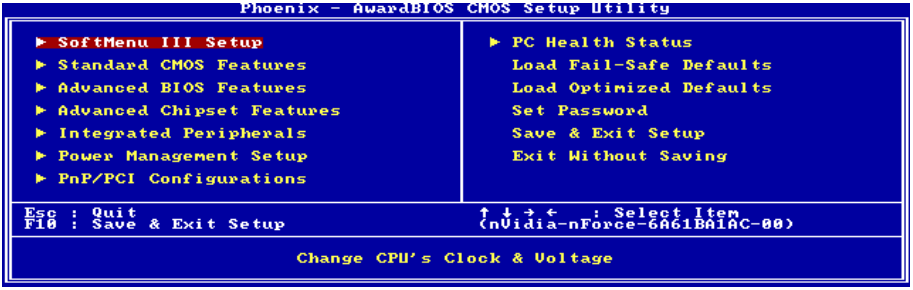
このマザーボードはプログラム可能な EEPROM を提供し、BIOS ユーティリティを更新することができます。BIOS (基本入出力システム)はプロセッサと周辺装置の間で通信の基本レベルを処理するプログラムです。マザーボードを取り付けたり、システムを再構成したり、“セットアップの実行”を指示するときにだけ、BIOS セットアッププログラムを使用します。本章では、BIOS ユーティリティのセットアップユーティリティを説明します。

システムの電源をオンにすると、BIOS メッセージが画面に表示され、メモリがカウントを開始し、次のメッセージが画面に表示されます。

PRESS DEL TO ENTER SETUP

応答する前にメッセージが消えたら、<Ctrl>＋<Alt>＋<Del>キーを押すか、コンピュータシャーシのリセットボタンを押してステムを再起動します。これらの 2 つの方法が失敗した場合のみ、電源をオフにした後またオンにしてシステムを再起動することができます。

<Del>キーを押した後、メインメニュー画面が表示されます。



注 : システムの安定性と性能を高めるために、当社の技術陣が BIOS メニューを絶えず改良しています。BIOS セットアップ画面と本書で示した説明は参照のためのもので、画面に表示されるものと完全に一致しないこともあります。

BIOS セットアップメインメニューには、複数のオプションが表示されます。本章の以下のページでこれらのオプションをステップバイステップで説明しますが、ここで使用する機能キーについて、まず簡単に説明いたします。

Esc:

このボタンを押すと、BIOS セットアップを終了します。

↑↓←→:

メインメニューでこれらのボタンを押すと、確認または修正するオプションを選択できます。

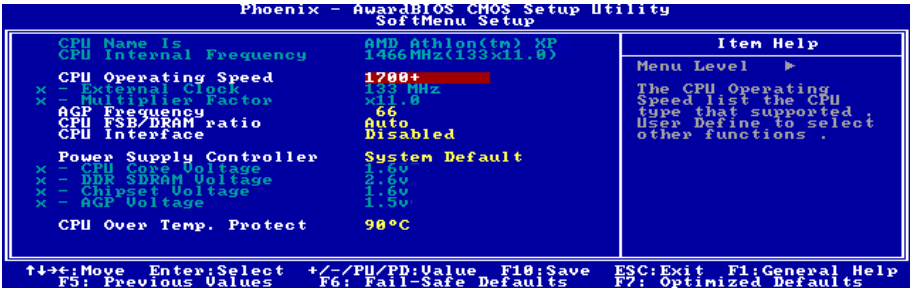
F10:

BIOS パラメータのセットアップが完了したら、このボタンを押してこられのパラメータを保存し、BIOS セットアップメニューを終了します。

3-1. SoftMenu Setup

SoftMenu ユーティリティは、CPU の動作速度プログラムするための ABIT の独占的で究極のソリューションです。CPU FSB 速度、マルチプライヤファクタ、AGP & PCI クロック、CPU コア電圧に関する全てのパラメータはワンタッチで操作することができます。

↳ NF7/NF7-S/NF7-M 専用:



CPU Name Is:

このアイテムは CPU のモデル名、例えば AMD Athlon(tm) XP を表示します。

CPU Internal Frequency:

このアイテムは CPU の内部クロック速度を表示します。

CPU Operating Speed:

このアイテムは、お使いの CPU のタイプと速度に従って CPU のオペレーティング速度を表示します。[User Define] (ユーザー定義) オプションを選択すると、マニュアルオプションに入ることができます。

User Define:

警告 : クロック倍数と外部クロックの設定を誤ると、CPU をダメージを与えることがあります。PCI のチップセットまたはプロセッサの仕様よりも高い周波数に設定すると、メモリモジュールエラー、システムクラッシュ、ハードディスクドライブのデータロス、VGA カードや他のアドオンカードの誤動作を招く場合があります。CPU の仕様外の設定は本書の目的ではありません。そうした設定はエンジニアリングテストのためで、通常のアプリケーションでは使用しないでください。

仕様を超える設定に対して保証はできません。これに起因するマザーボードまたは周辺装置の損傷に対して当社は責任を負わないものとします。

❋ **External Clock:**

このアイテムは、CPU フロントサイドバスの速度を 100 から 300 まで設定します。取り付けた CPU の仕様制限によって、その標準のバス速度を超えて設定した速度はサポートされますが、保証はされません。

❋ **Multiplier Factor:**

このアイテムは、取り付けた CPU の乗数を設定します。

注意 : プロセッサによっては、この乗数をロックしているものもあり、その場合大きい乗数を選択することはできません。

AGP Frequency:

このアイテムは、66MHz から 99MHz まで AGP クロック速度を設定します。AGP 仕様の制限により、この標準のクロック速度を超えて設定した速度はサポートされますが、保証はいたしません。

CPU FSB/DRAM ratio:

このアイテムは、CPU と DRAM の間で周波数比を設定します。初期設定は自動です。By SPD を選択すると BIOS は DRAM のモジュール SPD データを読み込み、その中に格納された値に設定されます。Auto（自動）に設定しているとき、DRAM クロック周波数は FSB 周波数以上になり、FSB と DRAM クロックは同期モードで自動的に実行され、より高いパフォーマンスを達成します。

CPU Interface:

次の 2 つのオプションが指定できます: Disabled（使用しない） ➔ Enabled（使用する）。デフォルト設定は *Disabled（使用しない）*です。*Disabled（使用しない）*に設定しているとき、システムはもっとも安定した CPU/FSB パラメータを使用します。*Enabled（使用する）*を選択すると、システムはオーバークロックされた CPU/FSB パラメータを使用します。

Power Supply Controller:

このオプションは、デフォルトの電圧とユーザー定義した電圧を切り替えます。現在の電圧設定が検出できなかったり正しくない場合の除き、この設定はデフォルトのままにしておいてください。オプション**"User Define"** (ユーザー定義) は、次の電圧を手動で選択できます。

❋ **CPU Core Voltage:**

このアイテムは、CPU のコア電圧を選択します。

❋ **DDR SDRAM Voltage:**

このアイテムは、DRAM の電圧を選択します。

❋ **Chipset Voltage:**

このアイテムは、Chipset の電圧を選択します。

❋ **AGP Voltage:**

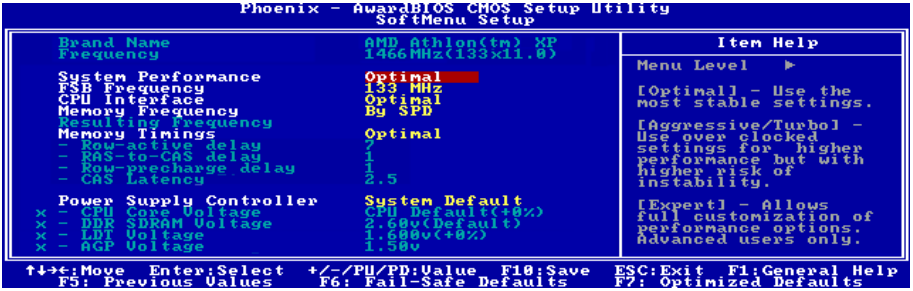
このアイテムは、AGP の電圧を選択します。

注意 : 間違った電圧設定を行うと、システムが不安定になったり、CPU が損傷することさえあります。その結果を十分掌握していない限り、デフォルトの設定のままにしておいてください。

CPU Over Temp. Protect:

このアイテムは、CPU 過熱しないようにシステムを自動的に停止する温度を設定します。

↳ NF7-S2/NF7-S2G 専用:



Brand Name:

このアイテムは CPU のモデル名、例えば AMD Athlon(tm) XP を表示します。

Frequency:

このアイテムは CPU の内部クロック速度を表示します。

System Performance:

次の 4 つのオプションが使用可能です: 最適化 ➔ アグレッシブ ➔ ターボ ➔ エキスパート 既定値は*最適化* となっています。*最適化* は最も安定した設定です。*アグレッシブ*、*ターボ* はオーバークロック設定時に使用します。エキスパート はユーザー定義です。

FSB Frequency:

このアイテムは、CPU フロントサイドバスの速度を 100 から 300 まで設定します。取り付けた CPU の仕様制限によって、その標準のバス速度を超えて設定した速度はサポートされますが、保証はされません。

CPU Interface:

次の 2 つのオプションが指定できます: Optimal（最適化） ➔ Aggressive（アグレッシブ）。デフォルト設定は *Optimal（最適化）*です。*Optimal（最適化）*に設定しているとき、システムはもっとも安定した CPU/FSB パラメータを使用します。*Aggressive（アグレッシブ）*を選択すると、システムはオーバークロックされた CPU/FSB パラメータを使用します。

Memory Frequency:

このアイテムは、DRAM 周波数を設定します。*SPD* に設定すると、BIOS が DRAM モジュール SPD データを読み取り、自動的にここに保存された値に設定します。

Resulting Frequency:

この項目は、現在の DRAM バス速度を表示します。

Memory Timings:

次の 4 つのオプションを設定できます: Optimal（最適） ➔ Aggressive（アグレッシブ） ➔ Turbo（ターボ） ➔ Expert（エクスパート）。デフォルトは *Optimal* です。メモリ互換性を重視する場合は *Optimal* を選択してください。メモリパフォーマンスを重視する場合は *Aggressive*/*Turbo* を選択してください。ユーザー定義を重視する場合は、*Expert* を選択してください。

❋ **Row-active delay:**

1 から 15 まで、15 のオプションが指定できます。このオプションは行アクティブタイムを指定します。これは、同じバンクに対する起動コマンドとプリチャージコマンド間のサイクルの最小数です。

❋ **RAS-to-CAS delay:**

1 から 7 まで、7 のオプションが指定できます。このアイテムは、CAS 遅延に対する SDR/DDR SDRAM RAS を設定するためのものです。SDRAM ACT を定義してコマンド期間の読み取り/書き込みを行うことができます。

❋ **Row-precharge delay:**

1 から 7 まで、7 のオプションが指定できます。このアイテムは、DRAM にプリチャージコマンドを発行した後にアイドルクロックを制御します。

❋ **CAS Latency Time:**

次の 3 つのオプションが指定できます : 2.0 ➔ 2.5 ➔ 3.0。デフォルト設定は *2.5* です。お使いの SDRAM 仕様に従って、SDRAM CAS（カラムアドレスストローブ）の待ち時間を選択することができます。

Power Supply Controller:

このオプションは、デフォルトの電圧とユーザー定義した電圧を切り替えます。現在の電圧設定が検出できなかったり正しくない場合の除き、この設定はデフォルトのままにしておいてください。オプション“**User Define**” (ユーザー定義) は、次の電圧を手動で選択できます。

❋ **CPU Core Voltage:**

このアイテムは、CPU のコア電圧を選択します。

❋ **DDR SDRAM Voltage:**

このアイテムは、DRAM の電圧を選択します。

❋ **LDT Voltage:**

このアイテムは、LDT の電圧を選択します。

❋ **AGP Voltage:**

このアイテムは、AGP の電圧を選択します。

注意：間違った電圧設定を行うと、システムが不安定になったり、CPU が損傷することさえあります。その結果を十分掌握していない限り、デフォルトの設定のままにしておいてください。

3-2. Standard CMOS Features

NF7/NF7-S/NF7-M:

NF7-S2/NF7-S2G:

Date (mm:dd:yy):

このアイテムは[月]、[日]、[年]の形式で指定する日付（通常、現在の日）を設定します。

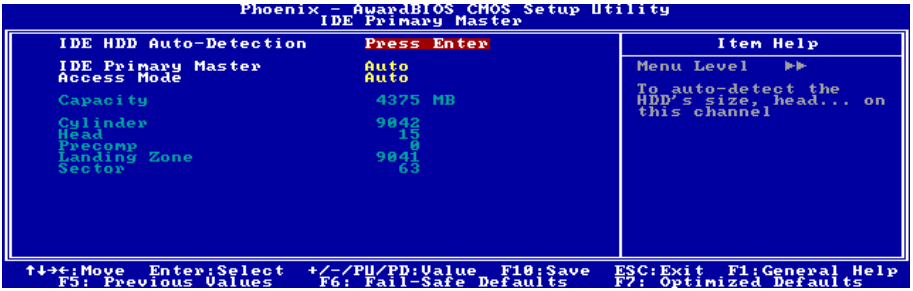
Time (hh:mm:ss):

このアイテムは[時]、[分]、[秒]の形式で指定する日付（通常、現在の時間）を設定します。

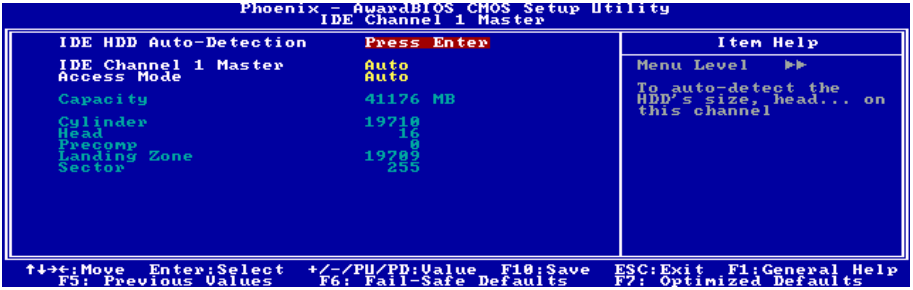
IDE Primary/Channel 1 Master/Slave, IDE Secondary/Channel 2 Master/Slave, IDE Channel 3/4 Master:

<Enter>キーをクリックすると、サブメニューに入ります。

NF7/NF7-S/NF7-M:



NF7-S2/NF7-S2G:



IDE HDD Auto-Detection:

このアイテムでは、<Enter> キーを押すことによって IDE ドライバのパラメータを検出できるようになっています。パラメータが画面上に自動的に表示されます。

IDE Primary/Channel 1 Master/Slave, IDE Secondary/Channel 2 Master/Slave, IDE Channel 3/4 Master:

[Auto] (自動) に設定すると、BIOS はどの種類の IDE ドライブを使用しているかを自動的にチェックします。自分でドライブを定義したい場合、これを[Manual] (マニュアル) に設定し、パラメータの意味を完全に理解していることを確認してください。正しい設定を得るには、デバイスメーカーが提供する使用説明書を参照してください。

Access Mode:

このアイテムはお使いの IDE デバイスにアクセスするモードを選択します。このアイテムをデフォルトの [Auto] (自動) 設定のままにしておくと、HDD のアクセスモードを自動的に検出します。

Capacity:

このアイテムはディスクドライブのおおよその容量を表示します。一般に、サイズはディスクチェックプログラムに示されるフォーマット済みディスクのサイズよりいくらか大きくなっています。

Cylinder:

このアイテムはシリンダの数を構成します。

Head:

このアイテムは読込/書込ヘッドの数を構成します。

Precomp:

このアイテムは、書込タイミングを変更するシリンダの数を表示します。

Landing Zone:

このアイテムは、読取り/書込みヘッド用のランディングゾーンとして指定されるシリンダの番号を表示します。

Sector:

このアイテムは、トラック当りのセクタの数を構成します。

➪ Standard CMOS Features Setup Menu に戻ります：

Drive A & Drive B:

このアイテムは取り付けたフロッピードライブ（通常、ドライブ A のみ）のタイプを設定します。

Floppy 3 Mode Support:

このアイテムによって、日本のコンピュータシステムの「3 モードフロッピードライブ」を使用し、ドライブ A、B、または AB 両方のドライブを選択することができます。日本標準のフロッピードライブを使用しない場合、デフォルトの [Disabled] (使用不可能) 設定のままにしてください。

Video:

このアイテムは、一次システム監視で使用されるビデオアダプタのタイプを選択します。

[EGA/VGA]: (Enhanced Graphics Adapter/Video Graphics Array) EGA、VGA、SVGA、PGA モニタアダプタの場合。

[CGA 40]: (Color Graphics Adapter) 40 カラムモードで駆動。

[CGA 80]: (Color Graphics Adapter) 80 カラムモードで駆動。

[Mono]: (Monochrome adapter) 高解像度のモノクロームアダプタを組み込み。

Halt On:

このアイテムは、システムの起動中にエラーが検出された場合、システムを停止するかどうかを決定します。

[All Errors]: システムブートは、BIOS が致命的でないエラーを検出すると必ず停止します。

[No Errors]: システムブートは、エラーを検出すると停止します。

[All, But Keyboard]: システムブートは、キーボードエラー以外のすべてのエラーに対して停止します。

[All, But Diskette]: システムブートは、ディスケットエラー以外のすべてのエラーに対して停止します。

[All, But Disk/Key]: システムブートは、ディスケットまたはキーボードエラー以外のすべてのエラーに対して停止します。

Base Memory:

このアイテムは、システムにインストールされた基本メモリの量を表示します。基本メモリの値は 640K を搭載したシステムの場合一般的には 640K ですが、マザーボードにさらに多くのメモリサイズをインストールすることもできます。

Extended Memory:

このアイテムは、システムの起動中に検出された拡張メモリの量を表示します。

Total Memory:

このアイテムは、システムで利用できる総メモリを表示します。

3-3. Advanced BIOS Features

Hard Disk Boot Priority: (NF7-S2/NF7-S2G)

このアイテムは、ハードディスクのブート優先順位を選択します。<Enter>キーを押すことによって、そのサブメニューに入り、ここで検出されたハードディスクをシステム起動のためのブートシーケンス用に選択することができます。

このアイテムは、1 次/2 次/3 次ブートデバイスアイテムのどれかに[ハードディスク]のオプションがあるときのみ機能します。

❋ **Bootable Add-in Device:**

これを使用して、[PCI スロットデバイス] と [オンチップ SATA]のアドインのデバイスの優先順位を選択することができます。

Removable Device Priority: (NF7-S2/NF7-S2G)

このアイテムはリムーバブルディスクの起動優先順位を選択します。

CD-ROM Boot Priority: (NF7-S2/NF7-S2G)

このアイテムは CD-ROM デバイスの起動優先順位を選択します。

注意：このアイテムは、コンピュータに CD-ROM デバイスがインストールされている場合のみ表示されます。

Virus Warning: (NF7/NF7-S/NF7-M)

このアイテムは Enabled（使用する）または Disabled（使用しない）に設定できます。デフォルトは Disabled です。この機能を使用すると、ソフトウェアやアプリケーションからブートセクタやパーティションテーブル対して書込みアクセスがある度に、ブートウィルスがハードディスクにアクセスしようとしているとして警告を出します。

Quick Power On Self Test:

[Enabled] (使用可能) に設定していると、このアイテムはシステムの電源をオンにした後電源オンセルフテスト(POST)の速度を上げます。BIOS は POST の間いくつかのチェックを短縮したりスキップします。

First Boot Device / Second Boot Device / Third Boot Device / Boot Other Device:

[First Boot Device] (第 1 ブートデバイス)、[Second Boot Device] (第 2 ブートデバイス)、[Third Boot Device](第 3 ブートデバイス) アイテムでそれぞれ起動する第 1、第 2、第 3 ドライブを選択します。BIOS は選択したドライブのシーケンスに従ってオペレーティングシステムを起動します。以上の 3 つのアイテム以外のデバイスから起動したい場合は、[他のデバイスを起動]を[Enabled] (使用可能) に設定してください。

Swap Floppy Drive:

このアイテムでは Enabled（使用する）または Disabled（使用しない）に設定できます。初期値設定は ***Disabled*** です。この機能を使用すると、コンピュータのケースを開けずに、フロッピーディスクドライブのコネクタの位置を交換したのと同じ効果が得られます。これによりドライブ A: をドライブ B: として、ドライブ B: をドライブ A: として使用できます。

Boot Up Floppy Seek:

次の 2 つのオプション、Disabled(使用する)または Enabled(使用する)が設定できます。デフォルトは *Enabled(使用しない)*です。デフォルトの設定は *Enabled.*です。この項目は、BIOS が、上記の First,Second,Third の 3 つのブート機器以外のデバイスからブートすることを設定します。「無効」に設定しますと、上記で設定した 3 つの機器からのみブートします。

Boot Up NumLock Status:

このアイテムは、システムが起動するときに数値キーボードのデフォルトの状態を決定します。

[On]：数字キーとしての数値キーパッド機能。

[Off]：矢印キーとしての数値キーパッド機能。

Security Option:

このアイテムは、システムがパスワードを要求するとき – システムが起動するたびか、または BIOS セットアップに入るときのみかを決定します。

[Setup]: パスワードは BIOS セットアップにアクセスするときのみ要求されます。

[System]: パスワードはコンピュータが起動するたびに要求されます。

セキュリティ機能を無効にするには、メインメニューで Set Supervisor Password を選択します。パスワードを入力するように要求されても何も入力せずに、<Enter>キーを押してください。セキュリティを解除するとシステムがブートし、自由に BIOS のセットアップメニューに自由にアクセスできるようになります。

注 : パスワードは忘れないでください。パスワードを忘れた場合、コンピュータのケースを開けて、CMOS のすべての情報をクリアにしてからシステムを起動してください。この場合、以前に設定したすべてのオプションはリセットされます。

APIC Mode:

このアイテムは、そのデフォルトの設定のままにしておいて下さい。

❋ **MPS Version Ctrl For OS:**

この項目は、このマザーボードが使用する MPS（多重プロセッサ仕様）のバージョンを指定します。オプションは 1.1 と 1.4 です。デフォルトの設定は ***1.4*** です。デュアルプロセッサを実行するために古い OS を使用する場合、このオプションを 1.1 に設定してください。

OS Select For DRAM > 64MB:

このアイテムにより、OS/2 で 64MB 以上のメモリにアクセスできます。OS/2 以外のオペレーティングシステムの場合、このアイテムをデフォルトの[非 OS2]設定のままにしておいてください。

Report No FDD For OS:

[Enabled] (使用可能) に設定すると、このアイテムによりフロッピーディスクドライブがなくても一部の古いオペレーティングシステムを実行できます。

Delay IDE Initial:

このアイテムにより、BIOS は遅延時間を引き延ばすことによって一部の古いまた特殊な IDE デバイスをサポートすることができます。値を大きくすると、デバイスを初期化したり動作できる準備をするための遅延時間が長くなります。

Full Screen LOGO Show: (NF7-S2/NF7-S2G)

この項目は追い出すとき全画面のロゴを示すことを定まる。

3-4. Advanced Chipset Features

➪ NF7/NF7-S/NF7-M 専用:

Memory Timings:

次の 5 つのオプションを設定できます: Optimal（最適） ➔ Aggressive（アグレッシブ） ➔ Turbo（ターボ） ➔ By SPD（SPD による） ➔ Expert（エクスパート）。デフォルトは *Optimal* です。メモリ互換性を重視する場合は *Optimal* を選択してください。メモリパフォーマンスを重視する場合は *Aggressive*/*Turbo* を選択してください。ユーザー定義を重視する場合は、*Expert* を選択してください。*By SPD* に設定しているとき、BIOS は DRAM モジュール SPD データを読み込み、それに格納されている値に自動的に設定します。

❋ **Row-active delay:**

1 から 15 まで、15 のオプションが指定できます。このオプションは行アクティブタイムを指定します。これは、同じバンクに対する起動コマンドとプリチャージコマンド間のサイクルの最小数です。

❋ **RAS-to-CAS delay:**

1 から 7 まで、7 のオプションが指定できます。このアイテムは、CAS 遅延に対する SDR/DDR SDRAM RAS を設定するためのものです。SDRAM ACT を定義してコマンド期間の読み取り/書き込みを行うことができます。

❋ **Row-precharge delay:**

1 から 7 まで、7 のオプションが指定できます。このアイテムは、DRAM にプリチャージコマンドを発行した後にアイドルクロックを制御します。

❋ **CAS Latency Time:**

次の 3 つのオプションが指定できます : 2.0 ➔ 2.5 ➔ 3.0。デフォルト設定は *2.5* です。お使いの SDRAM 仕様に従って、SDRAM CAS（カラムアドレスストローブ）の待ち時間を選択することができます。

System BIOS Cacheable:

Disabled（使用しない）か Enabled（使用する）のどちらかに設定します。デフォルトは *Enabled* です。Enabled に設定すると、L2 キャッシュを使用するので、システム BIOS の実行速度が向上します。

Video RAM Cacheable:

Disabled（使用しない）か Enabled（使用する）のどちらかに設定します。デフォルトは *Enabled* です。Enabled を選択すると、L2 キャッシュを使用するので、ビデオ RAM の実行速度が向上します。互換性の問題が生じないかどうか VGA アダプタのマニュアルをチェックしてください。

AGP Aperture Size:

このオプションは、AGP デバイスが使用できるシステムメモリの量を指定します。アパチャはグラフィックスメモリアドレススペース用に割り当てられた PCI メモリアドレス範囲の一部分です。

Frame Buffer Size:（NF7-M 専用）

6 つのオプション、8MB ➔ 16MB ➔ 32MB ➔ 64MB ➔ 128MB ➔ 無効（Disabled）。デフォルトの設定は *32MB* です。この項目により、オンボード VGA アクセラレータ用のフレームバッファメモリサイズを選択することができます。

FSB Spread Spectrum:

次の 3 つのオプションが指定できます：Disabled ➔ 0.50% ➔ 1.00%。デフォルト設定は *0.50%*です。

AGP Spread Spectrum:

次の 2 つのオプションが指定できます：Disabled ➔ 0.50%。デフォルト設定は *0.50%*です。

CPU Thermal-Throttling:

8 つのオプション、Disabled ➔ 87.5% ➔ 75.0% ➔ 62.5% ➔ 50.0%➔ 37.5% ➔ 25.0%➔ 12.5%に戻るを利用することができます。デフォルトの設定は *50.0%*です。

Enhance PCI Performance:

次の 2 つのオプションが指定できます: Disabled（使用しない） ➔ Enabled（使用する）。デフォルトは *Disabled (使用しない)*です。このアイテムは PCI 送信性能を改善することができます。

CPU Disconnect Function:

[Enabled]に設定すると、システムは C 状態変更で S2K FSB の接続を切ります。

Auto Precharge Write:

次の 2 つのオプションが指定できます: Disabled（使用しない）➔ Enabled（使用する）。デフォルトは *Disabled（使用しない）*です。

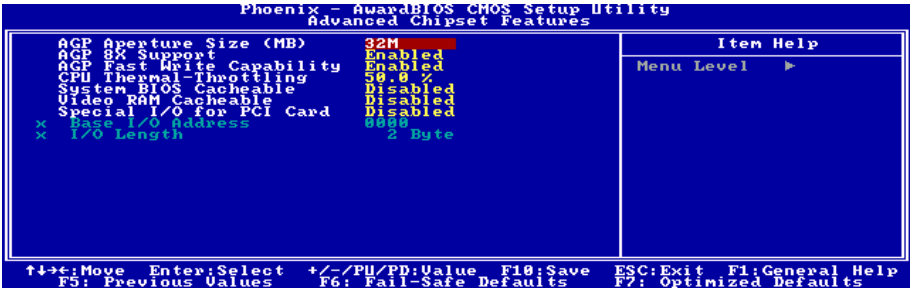
AGP Data Transfer Rate:

このアイテムにより、AGP デバイスのデータ転送速度を選択できます。速度が高ければ高いほど、システムのグラフィックス速度は高速になり性能も向上します。お使いのグラフィックスカードが選択したモードをサポートすることを確認してください。

AGP Fast Write Capability:

2 つのオプション、Disabled (無効)または Enabled (有効)を使用することができます。デフォルトの設定は *Enabled* です。お使いの AGP アダプタがこの機能をサポートできる場合、「有効」を選択することができます。そうでない場合は、「無効」を選択します。

➪ NF7-S2/NF7-S2G 専用:



AGP Aperture Size (MB):

このオプションは、AGP デバイスが使用できるシステムメモリの量を指定します。アパチャはグラフィックスメモリアドレススペース用に割り当てられた PCI メモリアドレス範囲の一部分です。

AGP 8X Support:

このアイテムは AGP 8X サポートを有効または無効にします。

AGP Fast Write Capability:

2 つのオプション、Disabled (無効)または Enabled (有効)を使用することができます。デフォルトの設定は *Enabled* です。お使いの AGP アダプタがこの機能をサポートできる場合、「有効」を選択することができます。そうでない場合は、「無効」を選択します。

CPU Thermal-Throttling:

8 つのオプション、Disabled ➔ 87.5% ➔ 75.0% ➔ 62.5% ➔ 50.0%➔ 37.5% ➔ 25.0%➔ 12.5%に戻るを利用することができます。デフォルトの設定は *50.0%*です。

System BIOS Cacheable:

Disabled（使用しない）か Enabled（使用する）のどちらかに設定します。Enabled に設定すると、L2 キャッシュを使用するので、システム BIOS の実行速度が向上します。

Video RAM Cacheable:

Disabled（使用しない）か Enabled（使用する）のどちらかに設定します。Enabled を選択すると、L2 キャッシュを使用するので、ビデオ RAM の実行速度が向上します。互換性の問題が生じないかどうか VGA アダプタのマニュアルをチェックしてください。

Special I/O for PCI Card:

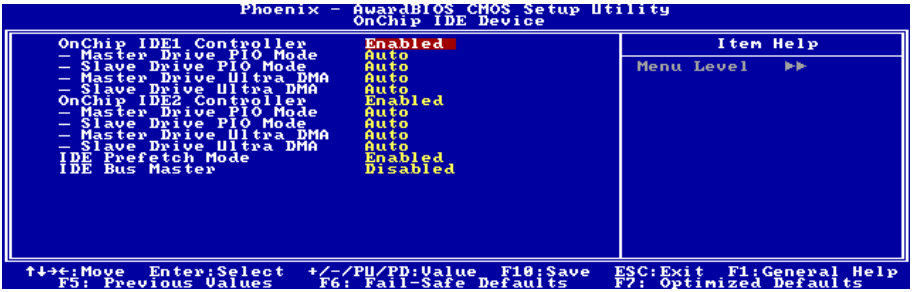
Disabled（使用しない）か Enabled（使用する）のどちらかに設定します。Enabled に設定されている場合、“Base I/O Address” と “I/O Length” という 2 つのアイテムが設定可能となり、特定の I/O アドレスを PCI カードに割り当てることができるようになります。

3-5. Integrated Peripherals

➪ NF7/NF7-S/NF7-M 専用:

OnChip IDE Device:

<Enter>キーをクリックすると、サブメニューに入ります。



OnChip IDE1 Controller:

このアイテムにより、一次および二次 IDE コントローラの使用可能/不可能を切り替えることができます。異なるハードドライブコントローラを追加するには、[Disabled] (使用不可能) を選択してください。

❋ **Master/Slave Drive PIO Mode**

PIO (プログラムド I/O)モードにより、BIOS はコントローラに必要なものを伝えることでコントローラと CPU が完全なタスクを実行できるようにします。BIOS が一連のコマンドを出して、ディスクドライブへの送受信に影響を及ぼすことはありません。

[Auto]: BIOS は、ディスクドライブをチェックした後利用に最も適したモードを選択します。

[Mode 0-4]: ディスクドライブのタイミングに一致するモードを選択できます。間違った設定を使用しないでください、そうでないとドライブエラーが発生します。

❋ **Master/Slave Drive Ultra DMA**

このアイテムにより、Ultra DMA を使用できるように設定できます。

[Auto]: BIOS は、ハードドライブや CD-ROM をチェックした後、利用に最も適したオプションを選択します。

[Disabled]: BIOS はこれらのカテゴリを検出しません。Ultra DMA デバイスを使用中に問題が発生したら、このアイテムを使用不可能にしてください。

OnChip IDE2 Controller:

OnChip IDE1 Controller の説明を参照してください。

IDE Prefetch Mode:

2 つのオプション、無効(Disabled)または有効(Enabled)を使用することができます。デフォルトの設定は*無効(Disabled)*です。オンボード IDE ドライブインターフェイスは、高速ドライブアクセスを先取りするための IDE 先取りをサポートします。プライマリまたはセカンダリアドイン IDE インターフェイスおよびその両方を取り付ける場合、インターフェイスが先取りをサポートしていない場合、このフィールドを*無効(Disabled)*に設定してください。

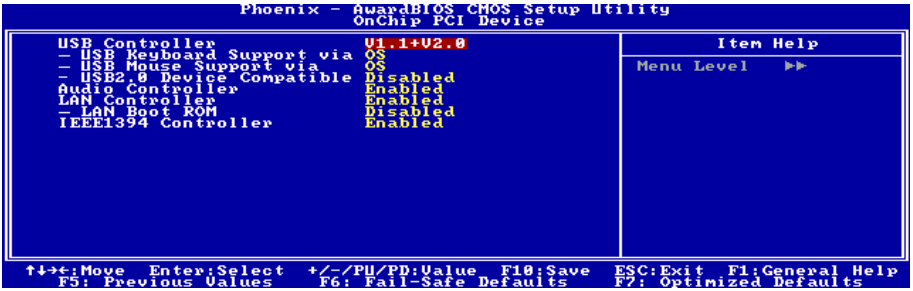
IDE Bus Master:

このオプションは、DOS 環境の下で IDE バスマスタリング機能の有効/無効を切り替えます。

➪ Integrated Peripherals Setup Menu に戻ります:

OnChip PCI Device:

<Enter>キーをクリックすると、サブメニューに入ります。



USB Controller:

次の 3 つのオプションが指定できます: Disabled(使用しない) ➔ V1.1+V2.0 ➔ V1.1。デフォルト設定は *V1.1+V2.0* です。このアイテムを Disable（使用しない）に設定すると、“**USB キーボードサポート**” および “**USB マウスサポート**”アイテムは *Integrated Peripherals（統合周辺機器）*メニューで選択できません。

❋ **USB Keyboard Support via:**

このアイテムは、DOS 環境で USB キーボードを使用するために[**BIOS**]を、OS 環境で[**OS**]を選択します。

❋ **USB Mouse Support via:**

このアイテムにより、DOS 環境で USB マウスを使用するための[**BIOS**]を、または、または OS 環境では[**OS**]を選択することができます。

❋ **USB2.0 Device Compatible:**

このアイテムは USB 2,0 デバイスとの互換性を有効または無効にします。

Audio Controller:

このアイテムはオーディオコントローラを使用できるようにします。

LAN Controller:

このアイテムは LAN コントローラを使用できるようにします。

❋ **LAN Boot ROM:**

このアイテムにより、（ディスクドライブの代わりに）ブート ROM を使用して、システムを起動し、構内通信網に直接アクセスできます。

IEEE1394 Controller:（NF7-S 専用）

このオプションは、IEEE 1394 コントローラの有効/無効を切り替えます。

↳ Integrated Peripherals Setup Menu に戻ります:

Onboard PCI Device:（NF7-S 専用）

<Enter>キーをクリックすると、サブメニューに入ります。

Serial ATA Controller:

このオプションは、Silicon Image SIL3112A SATA コントローラを有効または無効にします。

❋ **SATA RAID ROM:**

この項目では、オンチップシリアル ATA RAID のブート ROM を使用してシステムを起動することができます。

↳ Integrated Peripherals Setup Menu に戻ります:

Init Display First:

このアイテムは、システムが起動するとき AGP または PCI スロットをまず初期化するために選択します。

[PCI Slot]: システムが起動するとき、まず PCI を初期化します。

[AGP]: システムが起動するとき、まず AGP を初期化します。

EXT-P2P's Discard Time:

このアイテムは、EXT-P2P の放棄時間を設定します。

Onboard FDD Controller:

このアイテムはオンボード FDC コントローラを使用できるようにします。Enabled（使用する）または Disabled（使用しない）に設定できます。デフォルトは Enabled です。

Onboard Serial Port 1:

シリアルポート 1 の I/O アドレスと IRQ を指定します。選択可能な値は Disabled ➔ 3F8/IRQ4 ➔ 2F8/IRQ3 ➔ 3E8/IRQ4 ➔ 2E8/IRQ3 ➔ AUTO です。初期値設定は ***3F8/IRQ4*** です。

Onboard Serial Port 2:

シリアルポート 2 の I/O アドレスと IRQ を指定します。選択可能な値は Disabled ➔ 3F8/IRQ4 ➔ 2F8/IRQ3 ➔ 3E8/IRQ4 ➔ 2E8/IRQ3 ➔ AUTO です。初期値設定は ***2F8/IRQ3*** です。

*無効*を選択した場合、次のアイテムを設定することはできません。

❋ **Onboard IR Function:**

3 つのオプションから選択できます：IrDA (HPSIR) mode ➔ ASKIR (Amplitude Shift Keyed IR) mode ➔ Disabled。初期値設定は ***Disabled*** です。

IrDA または ASKIR の項目を選択するとき、次の 2 つの項目が表示されます。

❋ **RxD , TxD Active:**

IR 送受信の極性の高低を設定します。4 つのオプションから選択できます:Hi, Hi ➔ Hi, Lo ➔ Lo, Hi ➔ Lo, Lo。初期値設定は ***Hi, Lo*** です。

❋ **IR Transmission Delay:**

Enabled（使用する）または Disabled（使用しない）に設定できます。初期値設定は ***Enabled*** です。SIR が受信モードから送信モードに変わるときの IR 転送遅延の 4 キャラクタ時間（40 ビット時間）を設定します。

❋ **IR Function Duplex:**

次の 2 つのオプションが指定できます：Full（全）または Half（半）。デフォルト設定は *Half（半）*です。IR ポートに接続されている IR デバイスが要求する値を選択します。全二重モードは、二方向の同時伝送を可能にします。半二重モードは、一度に一方向のみの伝送を可能にします。

❋ **Use IR Pins:**

次の 2 つのオプションが指定できます：RxD2,TxD2 および IR-Header（ヘッダ）。デフォルト設定は *IR-Header（ヘッダ）*です。*RxD2, TxD2* を選択した場合、マザーボードは COM ポート IR KIT 接続をサポートする必要があります。または、マザーボードの IR ヘッダを使用して *IR-Header* のみを選択し、IR KIT を接続することができます。デフォルト設定をご使用ください。

注意：「**RxD, TxD アクティブ**」の項目に対する設定も「**TX, RX 反転**」と呼ばれており、RxD と TxD のアクティビティを決定することを可能にします。当社ではこれを「**Hi, Lo**」に設定しています。お使いのマザーボードがこの項目を表すために「**いいえ**」と「**はい**」を使用している場合、これを NF7/NF7-M/NF7-S と同じセッティングに設定する必要があります。これは、転送速度と受信速度に適合させるために、これを「**はい、いいえ**」に設定する必要があることを意味します。そうすることができなかった場合、NF7/NF7-M/NF7-S とその他のコンピュータの間で IR 接続を確立することができません。

Onboard Parallel Port:

オンボードパラレルポートの I/O アドレスと IRQ を設定できます。４つのオプションから選択できます：Disable ➔ 378/IRQ7 ➔ 278/IRQ5 ➔ 3BC/IRQ7。初期値設定は ***378/IRQ7*** です。

❋ **Parallel Port Mode:**

４つのオプションから選択できます：SPP ➔ EPP ➔ ECP ➔ ECP+EPP。初期値設定は ***ECP+EPP*** です。

❋ **EPP Mode Select:**

２つのオプションから選択できます：EPP1.7 ➔ EPP1.9。初期値設定は ***EPP 1.9*** です。パラレルポートのモードを EPP モードに設定すると、２つの EPP バージョンから選択できます。

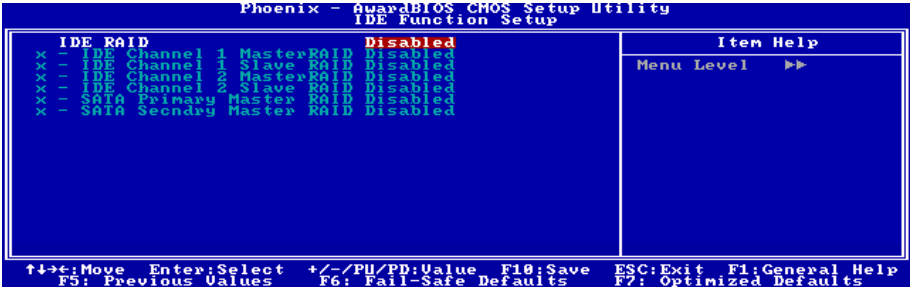
❋ **ECP Mode Use DMA:**

２つのオプションから選択できます：1 ➔ 3。初期値設定は ***3*** です。パラレルポートのモードを ECP モードに設定すると、DMA チャネルは Channel 1 か Channel 3 となります。

✎ NF7-S2/NF7-S2G 専用:

IDE Function Setup:

<Enter>キーをクリックすると、サブメニューに入ります。



IDE RAID:

このアイテムは IDE RAID 機能を有効または無効にします。

❋ **IDE Channel 1/2 Master/Slave RAID, SATA Primary/Secondary Master RAID:**

RAID ディスクとして使用したいディスクを選択してください。

↳ Integrated Peripherals Setup Menu に戻ります:

Onboard Device:

<Enter>キーをクリックすると、サブメニューに入ります。

LAN Controller:

このアイテムは LAN コントローラを使用できるようにします。

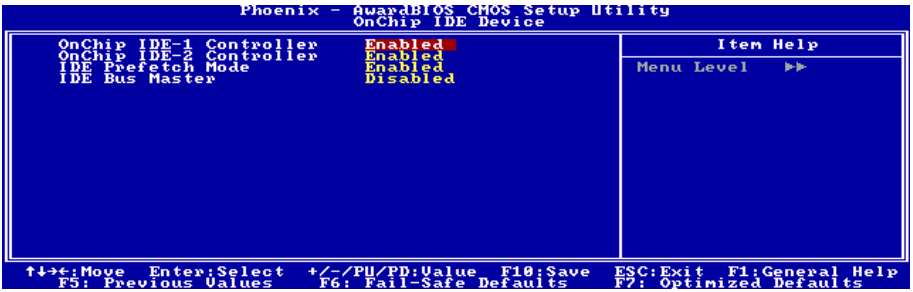
❋ **LAN Boot ROM:**

このアイテムにより、（ディスクドライブの代わりに）ブート ROM を使用して、システムを起動し、構内通信網に直接アクセスできます。

↳ Integrated Peripherals Setup Menu に戻ります:

Onchip IDE Device:

<Enter>キーをクリックすると、サブメニューに入ります。



OnChip IDE-1/IDE-2 Controller:

このアイテムにより、一次および二次 IDE コントローラの使用可能/不可能を切り替えることができます。異なるハードドライブコントローラを追加するには、[Disabled] (使用不可能) を選択してください。

IDE Prefetch Mode:

2 つのオプション、無効(Disabled)または有効(Enabled)を使用することができます。デフォルトの設定は*無効(Disabled)*です。オンボード IDE ドライブインターフェイスは、高速ドライブアクセスを先取りするための IDE 先取りをサポートします。プライマリまたはセカンダリアドイン IDE インターフェイスおよびその両方を取り付ける場合、インターフェイスが先取りをサポートしていない場合、このフィールドを*無効(Disabled)*に設定してください。

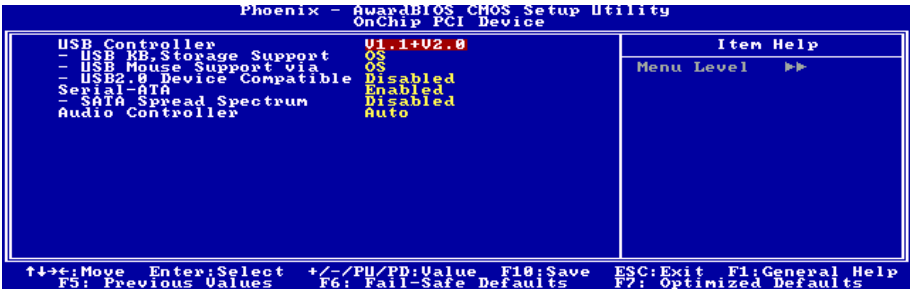
IDE Bus Master:

このオプションは、DOS 環境の下で IDE バスマスタリング機能の有効/無効を切り替えます。

↳ Integrated Peripherals Setup Menu に戻ります:

OnChip PCI Device:

<Enter>キーをクリックすると、サブメニューに入ります。



USB Controller:

次の 3 つのオプションが指定できます: Disabled(使用しない) ➔ V1.1+V2.0 ➔ V1.1。デフォルト設定は *V1.1+V2.0* です。このアイテムを Disable（使用しない）に設定すると、“**USB キーボードサポート**” および “**USB マウスサポート**”アイテムは *Integrated Peripherals（統合周辺機器）*メニューで選択できません。

❋ **USB KB, Storage Support:**

このアイテムは、DOS 環境で USB キーボード/記憶装置を使用するために[BIOS]を、OS 環境で[OS]を選択します。

❋ **USB Mouse Support via:**

このアイテムにより、DOS 環境で USB マウスを使用するための[**BIOS**]を、または、または OS 環境では[**OS**]を選択することができます。

❋ **USB2.0 Device Compatible:**

このアイテムは USB 2,0 デバイスとの互換性を有効または無効にします。

Serial-ATA:

このオプションは、OnChip SATA コントローラを有効または無効にします。

❋ **SATA Spread Spectrum:**

有効または無効のいずれかのオプションを選択してください。既定値は*無効* となっています。SATA スペクトラム拡散を有効または無効にすることができます。

Audio Controller:

このアイテムはオーディオコントローラを使用できるようにします。

➪ Integrated Peripherals Setup Menu に戻ります:

SuperIO Device:

<Enter>キーをクリックすると、サブメニューに入ります。

Onboard FDD Controller:

このアイテムはオンボード FDC コントローラを使用できるようにします。Enabled（使用する）または Disabled（使用しない）に設定できます。デフォルトは Enabled です。

Onboard Serial Port 1:

シリアルポート 1 の I/O アドレスと IRQ を指定します。選択可能な値は Disabled ➔ 3F8/IRQ4 ➔ 2F8/IRQ3 ➔ 3E8/IRQ4 ➔ 2E8/IRQ3 ➔ AUTO です。初期値設定は ***3F8/IRQ4*** です。

Onboard Parallel Port:

オンボードパラレルポートの I/O アドレスと IRQ を設定できます。４つのオプションから選択できます：Disable ➔ 378/IRQ7 ➔ 278/IRQ5 ➔ 3BC/IRQ7。初期値設定は ***378/IRQ7*** です。

❋ **Parallel Port Mode:**

４つのオプションから選択できます：SPP ➔ EPP ➔ ECP ➔ ECP+EPP。初期値設定は ***ECP+EPP*** です。

❋ **EPP Mode Select:**

２つのオプションから選択できます：EPP1.7 ➔ EPP1.9。初期値設定は ***EPP 1.9*** です。パラレルポートのモードを EPP モードに設定すると、２つの EPP バージョンから選択できます。

❋ **ECP Mode Use DMA:**

２つのオプションから選択できます：1 ➔ 3。初期値設定は ***3*** です。パラレルポートのモードを ECP モードに設定すると、DMA チャネルは Channel 1 か Channel 3 となります。

↳ Integrated Peripherals Setup Menu に戻ります:

Init Display First:

このアイテムは、システムが起動するとき AGP または PCI スロットをまず初期化するために選択します。

[PCI Slot]: システムが起動するとき、まず PCI を初期化します。

[AGP]: システムが起動するとき、まず AGP を初期化します。

3-6. Power Management Setup

ACPI Suspend Type:

このアイテムは、サスペンドモードのタイプを選択します。

[S1(PowerOn-Suspend)]：電源オンサスペンド機能を使用可能にします。

[S3(Suspend-To-RAM)]：サスペンド対 RAM 機能を使用可能にします。

Power Button Function:

このアイテムは Delay 4 Sec か Instant-Off に指定できます。デフォルトは *Instant-Off* です。システムが作動中に電源ボタンを 4 秒以上押しつづけると、システムはソフトオフ（ソフトウェアによるパワーオフ）モードに変わります。これを電源ボタンオーバーライドと呼びます。

WakeUp by PME# of PCI:

[Enabled] (使用可能) に設定しているとき、モデムや LAN カードなどのオンボード LAN や PCI カードにアクセスすると、システムを呼び起こす原因となります。PCI カードは呼び起こし機能をサポートする必要があります。

Wakeup By Ring:

次の 2 つのアイテム、Disabled（使用しない）または Enabled（使用する）が設定できます。デフォルトは *Disabled（使用しない）*です。*Enabled（使用しない）*に設定するとき、モデムリングに影響を及ぼすイベントはパワーダウンしたシステムを呼び起こします。

Wakeup by Alarm: (NF7/NF7-S/NF7-M)

次の 2 つのオプションが指定できます: Disabled（使用しない） または Enabled（使用する）。デフォルトは *Disabled（使用しない）*です。*Enabled（使用する）*に設定すると、RTC (リアルタイムクロック)アラームがサスペンドモードからシステムを呼び起こす日と時間を設定できます。

❋ **Time (hh:mm:ss) of Alarm:**

日付（月）アラームと時間アラーム (hh:mm:ss) を設定することができます。発生するイベントはすべて、パワーダウンしたシステムを呼び起します。

USB Resume from S3/S4: (NF7-S2/NF7-S2G)

[Enabled] (使用可能) に設定していると、このアイテムにより USB デバイスを使用して S3/S4 状態にあるシステムを呼び起こすことができます。

Power-On by Alarm: (NF7-S2/NF7-S2G)

次の 2 つのオプションが指定できます: Disabled（使用しない） または Enabled（使用する）。デフォルトは *Disabled（使用しない）*です。*Enabled（使用する）*に設定すると、RTC (リアルタイムクロック)アラームがサスペンドモードからシステムを呼び起こす日と時間を設定できます。

❋ **Day of Month Alarm/ Time (hh:mm:ss) Alarm:**

日付（月）アラームと時間アラーム (hh:mm:ss) を設定することができます。発生するイベントはすべて、パワーダウンしたシステムを呼び起します。

Power On Function:

このアイテムは、システムの電源をオンにする方法を選択します。

[Password]: パスワードを使用してシステムの電源をオンにします。このオプションを選択してから、<Enter>を押してください。パスワードを入力してください。最大 5 文字まで入力できます。正確に同じパスワードを入力して確認したら、<Enter>を押します。

[Hot KEY]: <F1> から <F12>までのどれかの機能を使用して、システムの電源をオンにします。

[Mouse Left]: マウスの左ボタンをダブルクリックして、システムの電源をオンにします。

[Mouse Right]: マウスの右ボタンをダブルクリックして、システムの電源をオンにします。

[Any KEY]: キーボードの任意のキーを使用して、システムの電源をオンにします。

[BUTTON ONLY]: 電源ボタンのみを使用して、システムの電源をオンにします。

[Keyboard 98]: “Keyboard 98”互換キーボードの電源オンボタンを使用して、システムの電源をオンにします。

注：この「電源オン」機能を有効にするには、［KBPWR1］、［USBPWR1］の呼び起こしヘッダを［Enabled（有効）］の位置に設定する必要があります。第 2 章、2-4 項の「呼び起こしヘッダ”［KBPWR1］、［USBPWR1］の構成を参照してください。

マウスの呼び起こし機能は、COM ポートや USB タイプではなく、PS/2 マウスでのみ使用可能です。一部の PS/2 マウスの中には、互換上の問題が理由で呼び起こしができないものもあります。キーボードの仕様があまりにも古いと、電源をオンにできないことがあります。

❋ **KB Power On Password:**

<**Enter**>キーを押すと、希望するパスワードを入力することができます。入力が完了すると、設定を保存して BIOS 設定メニューを終了し、コンピュータシステムを再起動する必要があります。次にコンピュータをシャットダウンしたとき、電源ボタンを使用してコンピュータの電源をオンにすることはできません。コンピュータの電源をオンにするには、パスワードを入力する必要があります。

❋ **Hot Key Power On:**

次の 15 のオプションが指定できます: Ctrl+F1 ~ Ctrl+F12、Power（電源）、Wake（呼び起こし）、Any Key（任意のキー）。デフォルトは *Ctrl+F1* です。希望するホットキーを選択して、コンピュータの電源をオンにすることができます。

Restore on AC Power Loss:

このアイテムは、AC 電源に障害が発生した後のシステム動作を選択します。

[Power Off]: AC 電源の障害後に電源が回復しても、システムの電源はオフになったままです。システムの電源をオンにするには、電源ボタンを押す必要があります。

[Power On]: AC 電源の障害後に電源が回復すると、システムの電源は自動的にオンになります。

[Last State]: AC 電源の障害後に電源が回復すると、システムは電源障害が発生する前の状態に戻ります。AC 電源の障害が発生したときにシステムの電源がオフになっていたら、電源が回復したときにもシステムの電源はオフになったままです。AC 電源の障害が発生したときにシステムの電源がオンになっていたら、電源が回復したときにシステムの電源はオンになります。

3-7. PnP/PCI Configurations

➪ NF7/NF7-S/NF7-M 専用:

Force Update ESCD:

次回ブートアップしたときに ESCD のデータを消去して、BIOS に PnP ISA カードと PCI カードの設定をリセットしたい場合は、Enabled を選択してください。ただし次回ブートアップするときには、このオプションは再び自動的に Disabled に戻されます。

注意：ESCD（Extended System Configuration Data）にはシステムの IRQ、DMA、I/O ポート、メモリ情報が記録されます。これは Plug & Play BIOS の仕様であり機能です。

Resources Controlled By:

このアイテムは、全ての起動およびプラグアンドプレイ互換デバイスを構成します。

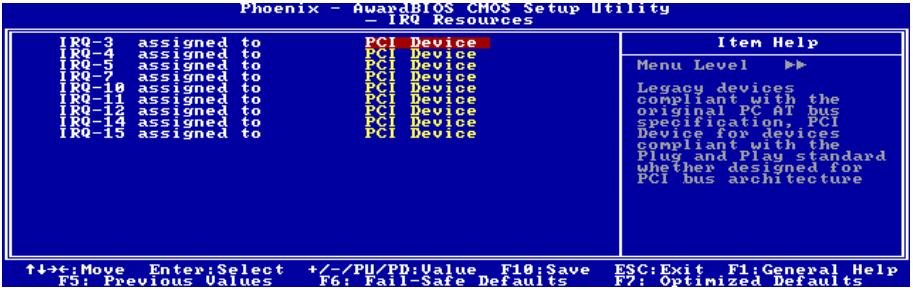
[Auto(ESCD)]: システムは設定を自動的に検出します。

[Manual]: “IRQ リソース”メニューで、特定の IRQ リソースを選択してください。

❋ **IRQ Resources:**

<Enter>キーをクリックすると、サブメニューに入ります。

このアイテムは、各システム割り込みを[PCI デバイス] または [予約済み]に設定します。



➪ PnP/PCI Configurations Setup Menu に戻ります:

PCI/VGA Palette Snoop:

このアイテムは、MPEG ISA/VESA VGA カードが PCI/VGA で作動できるかどうかを決定します。

[Enabled]: MPEG ISA/VESA VGA カードは、PCI/VGA で作動できます。

[Disabled]: MPEG ISA/VESA VGA カードは PCI/VGA で作動しません。

Allocate IRQ to Video:

このアイテムは、取り付けた VGA カードの IRQ を割り当てます。

[Enabled] : 取り付けた VGA カードの IRQ を自動的に割り当てます。

[Disabled] : VGA カードによって以前に占有された IRQ は、新しいデバイスでも使用できます。

Allocate IRQ to USB:

このアイテムは、接続されている USB デバイスに対して IRQ を割り当てます。

[Enabled]: 接続されている USB デバイスに対して IRQ を自動的に割り当てます。

[Disabled]: 接続されている USB デバイスによって以前占有されていた IRQ は、新しいデバイスに対して利用できます。

PCI Latency Timer:

0 から 255 までの DEC(10 進法)番号が設定できます。デフォルトの設定は *32* です。このアイテムにより、PCI レイテンシークロック遅延時間を設定することができます。つまり、遅延させたいクロック数を設定できることになります。

PIRQ_0 Use IRQ No. ~ PIRQ 3 Use IRQ No.:

このアイテムは、PCI スロットに取り付けたデバイスの IRQ 番号を自動または手動で指定します。

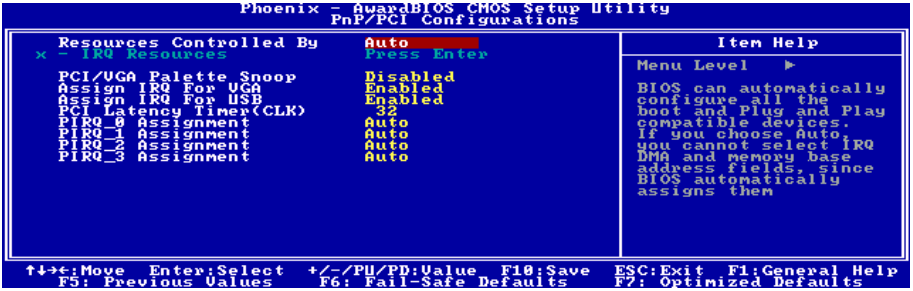
PIRQ (サウスブリッジから出る信号)、INT# (PCI スロット IRQ 信号のことです) のハードウェアレイアウト間の関係については、下の表を参照してください。

信号	PCI-1	PCI-2	PCI-3	PCI-4	PCI-5	SATA
PIRQ_0 割り当て	INT C	INT B	INT A	INT D	INT C	
PIRQ_1 割り当て	INT D	INT C	INT B	INT A	INT D	
PIRQ_2 割り当て	INT A	INT D	INT C	INT B	INT A	INT A
PIRQ_3 割り当て	INT B	INT A	INT D	INT C	INT B	

注意：

- PCI スロット 1 は PCI スロット 5, SATA で IRQ 信号を共有。
- 同時に 1 つの IRQ を共有するこれらの PCI スロットに 2 枚の PCI カードを取り付けたい場合、OS と PCI デバイスのドライバが IRQ 共有機能をサポートしていることを確認する必要があります。

↳ NF7-S2/NF7-S2G 専用:



Resources Controlled By:

このアイテムは、全ての起動およびプラグアンドプレイ互換デバイスを構成します。

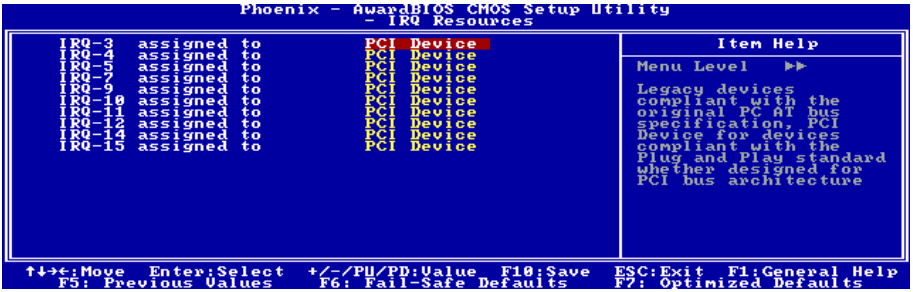
[Auto(ESCD)]: システムは設定を自動的に検出します。

[Manual]: “IRQ リソース”メニューで、特定の IRQ リソースを選択してください。

❋ **IRQ Resources:**

<Enter>キーをクリックすると、サブメニューに入ります。

このアイテムは、各システム割り込みを[PCI デバイス] または [予約済み]に設定します。



↳ PnP/PCI Configurations Setup Menu に戻ります:

PCI/VGA Palette Snoop:

このアイテムは､MPEG ISA/VESA VGA カードが PCI/VGA で作動できるかどうかを決定します。

[Enabled]: MPEG ISA/VESA VGA カードは、PCI/VGA で作動できます。

[Disabled]: MPEG ISA/VESA VGA カードは PCI/VGA で作動しません。

Assign IRQ for VGA:

このアイテムは、取り付けた VGA カードの IRQ を割り当てます。

[Enabled] : 取り付けた VGA カードの IRQ を自動的に割り当てます。

[Disabled] : VGA カードによって以前に占有された IRQ は、新しいデバイスでも使用できます。

Assign IRQ for USB:

このアイテムは、接続されている USB デバイスに対して IRQ を割り当てます。

[Enabled]: 接続されている USB デバイスに対して IRQ を自動的に割り当てます。

[Disabled]: 接続されている USB デバイスによって以前占有されていた IRQ は、新しいデバイスに対して利用できます。

PCI Latency Timer:

0 から 255 までの DEC（10 進法）番号が設定できます。デフォルトの設定は *32* です。このアイテムにより、PCI レイテンシークロック遅延時間を設定することができます。つまり、遅延させたいクロック数を設定できることになります。

PIRQ 0 Assignment ~ PIRQ 3 Assignment:

This item specifies the IRQ number manually or automatically for the devices installed on PCI slots.

For the relations between the hardware layout of PIRQ (the signals from the south bridge chipset), INT# (means PCI slot IRQ signals) and devices, please refer to the table below:

信号	PCI-1	PCI-2	PCI-3	PCI-4	PCI-5	SATA
PIRQ_0 割り当て	INT C	INT D	INT A	INT B	INT C	
PIRQ_1 割り当て	INT D	INT A	INT B	INT C	INT D	INT A
PIRQ_2 割り当て	INT A	INT B	INT C	INT D	INT A	
PIRQ_3 割り当て	INT B	INT C	INT D	INT A	INT B	

注意：

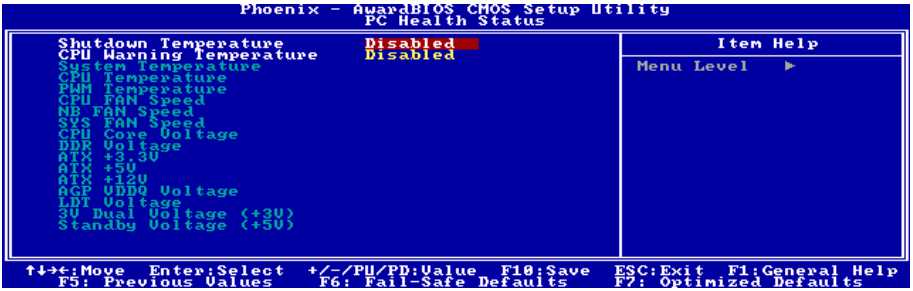
- PCI スロット 1 は PCI スロット 5 で IRQ 信号を共有。
- 同時に 1 つの IRQ を共有するこれらの PCI スロットに 2 枚の PCI カードを取り付けたい場合、OS と PCI デバイスのドライバが IRQ 共有機能をサポートしていることを確認する必要があります。

3-8. PC Health Status

システムが警告を発したり、シャットダウンしたりする温度を設定することができます。また、ファンの回転速度や電圧をチェックしたりすることもできます。この機能はシステムの重要なパラメータを監視するのに非常に便利です。

NF7/NF7-S/NF7-M:

NF7-S2/NF7-S2G:



Shutdown When CPUFAN Fail: (NF7/NF7-S/NF7-M)

次の 2 つのオプションが指定できます:Disabled（使用しない）または Enabled（指定する）。デフォルト設定は *Disabled（使用しない）*です。*Enabled（使用する）*に設定している場合、CPUFAN が動かなくなると、システムはプロセッサが過熱しないように強制的に遮断します。

CPU Shutdown Temperature / Shutdown Temperature:

Disabled ➔ 60℃/140°F ➔ 65℃/149°F ➔ 70℃/158°F ➔ 75℃/167°F の 5 つのオプションが用意されています。デフォルト設定は *Disabled* です。ここではプロセッサのシャットダウン温度を設定できます。プロセッサの温度が設定値を超えると、システムは直ちにチャットダウンしてプロセッサの過熱を防ぎます。

CPU Warning Temperature:

警告メッセージを発する温度を設定します。システムがここで設定した温度を超えると、ビープ音を発して警告します。値は 50°C から 120°C の範囲で設定してください。

All Voltages, Fans Speed and Thermal Monitoring:

CPU と環境の温度（RT1 を使って検温します）、ファンの回転速度（CPU ファンとシャーシファン）を表示します。これらの値は変更できません。

次のアイテムはシステムの電源の電圧を示しています。この値も変更できません。

注意 : 温度、ファンの回転速度、電圧を測定するためのハードウェア監視機能を有効にする場合は、294H から 297H までの I/O アドレスを使用します。ネットワークアダプタ、サウンドカード、またはこれらの I/O アドレスを使用する可能性のあるアドオンカードが装着されている場合は、競合を避けるためにアドオンカードの I/O アドレスを調整してください。

3-9. Load Fail-Safe Defaults

このオプションはデフォルトの BIOS 値をロードして、最も安定した、最適のシステムパフォーマンスを実現します。

3-10. Load Optimized Defaults

このオプションは、出荷時のデフォルトの BIOS 設定をロードして、最適のシステムパフォーマンスを実現します。

3-11. Set Password

このオプションは BIOS 構成を保護したり、コンピュータへのアクセスを制限します。

3-12. Save & Exit Setup

このオプションは選択を保存して BIOS セットアップメニューを終了します。

3-13. Exit Without Saving

このオプションは、変更を保存せずに BIOS セットアップメニューを終了します。

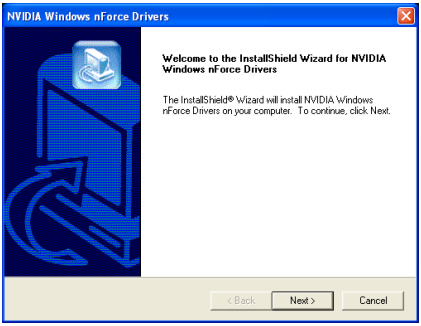
付録 A. NVIDIA nForce Chipset ドライバのインストール

注：Windows オペレーティングシステムをインストールした後、まず NVIDIA nForce Chipset ドライバをインストールしてください。

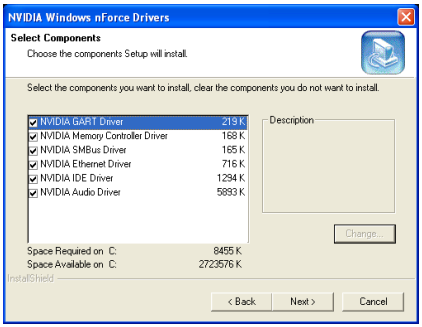
本項のインストール手順と画面ショットは、Windows XP オペレーティングシステムに基づいています。その他の OS のインストール手順と画面ショットについては、その OS のオンスクリーンの指示に従ってください。

ドライバとユーティリティ CD を CD-ROM ドライブに挿入すると、インストールプログラムが自動的に実行します。自動的に実行しない場合、この CD のルートディレクトリで実行ファイルをダブルクリックし、インストールメニューに入ってください。

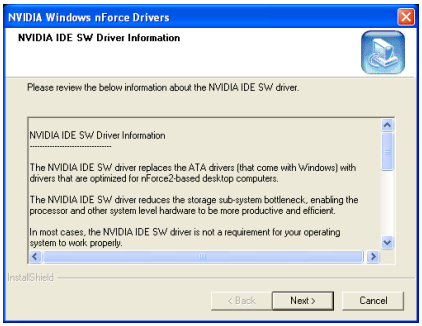
インストールメニューに入ったら、カーソルを[ドライバ]タブに移動します。[nVIDIA nForce Chipset ドライバ]をクリックしてください。次の画面が表示されます。



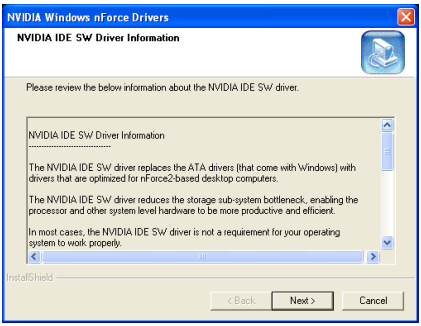
1. ［次へ］をクリックします。



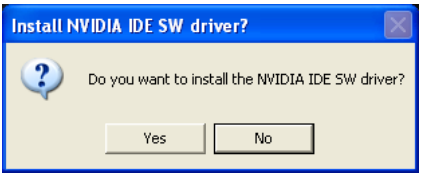
2. ［次へ］をクリックします。



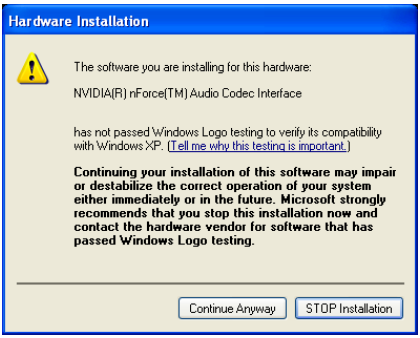
3. ［次へ］をクリックします。



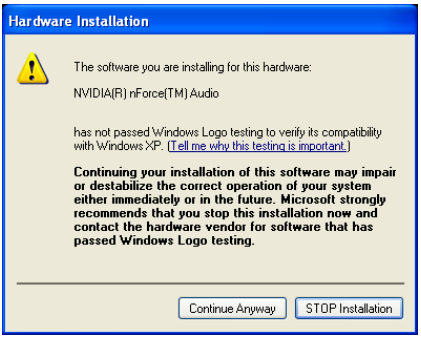
4. ［次へ］をクリックします。



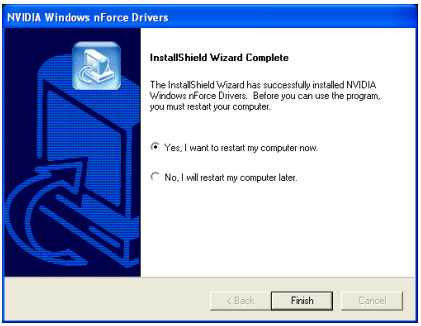
5. [はい]をクリックします。



6. ［Continue Anyway］をクリックします。



7. ［Continue Anyway］をクリックします。



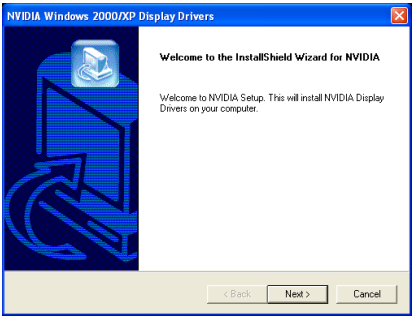
8. ［はい、今すぐコンピュータを再起動します］を選択されるようお勧めします。[終了]をクリックしてインストールを終了します。

付録 B. Integrated GPU ドライバのインストール (NF7-M)

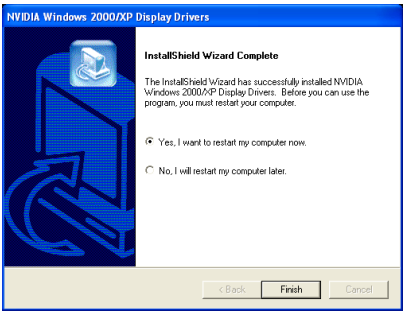
本項のインストール手順と画面ショットは、Windows XP オペレーティングシステムに基づいています。その他の OS のインストール手順と画面ショットについては、その OS のオンスクリーンの指示に従ってください。

ドライバとユーティリティ CD を CD-ROM ドライブに挿入すると、インストールプログラムが自動的に実行します。自動的に実行しない場合、この CD のルートディレクトリで実行ファイルをダブルクリックし、インストールメニューに入ってください。

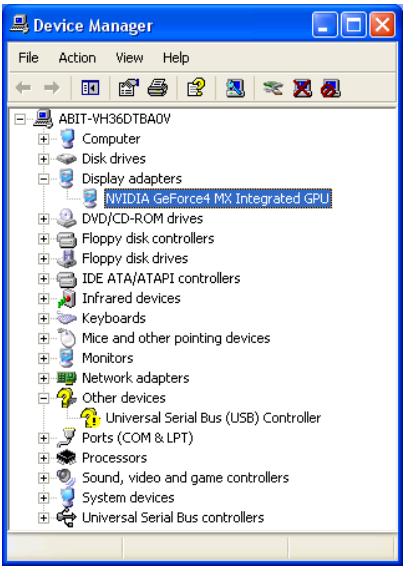
インストールメニューに入ったら、カーソルを[ドライバ]タブに移動します。[Integrated GPU Driver]をクリックしてください。次の画面が表示されます。



1. ［次へ］をクリックします。



2. ［はい、今すぐコンピュータを再起動します］を選択されるようお勧めします。[終了]をクリックしてインストールを終了します。



3. システムが再起動し、オペレーティングシステムに入ったら、[**デバイス マネージャ**］をチェックしてデバイスが適切にインストールされていることを確認することができます。

MEMO

付録 C.　USB 2.0 ドライバのインストール

注：“ドライバ&ユーティリティ CD”に付属する“USB 2.0 ドライバ”は現在、Windows 9x と ME でのみ利用できます。Windows XP または Windows 2000 に対してこのドライバをインストールするには、Microsoft の Web サイトから最新のサービスパックをダウンロードする必要があります。

Windows 9x および ME に対して USB 2.0 をインストールするには、CD-ROM ドライブに「ドライバ&ユーティリティ CD をインストールしてください。インストールプログラムが自動実行します。自動実行しない場合、CD のルートディレクトリの実行ファイルをダブルクリックしてインストールメニューに入ってください。次の画面が表示されます。

[USB 2.0 Driver]をクリックし、オンスクリーンの指示に従ってドライバのインストールを完了します。

MEMO

付録 D. LAN ドライバのインストール（NF7-S2G）

LAN ドライバをインストールするには、CD-ROM ドライブに「ドライバ&ユーティリティ CD」を挿入してください。インストールプログラムが自動実行します。自動実行しない場合、CD のルートディレクトリの実行ファイルをダブルクリックして、インストールメニューに入ってください。次の画面が表示されます。

[VIA Ethernet Driver（VIA イーサネットドライバ）]をクリックし、オンスクリーンの指示に従ってドライバのインストールを完了してください。

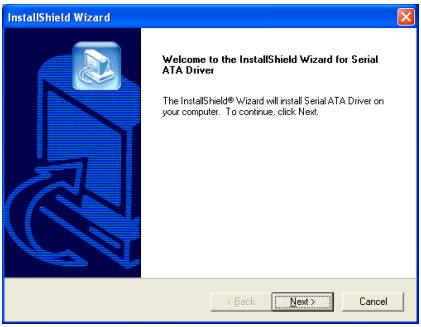
MEMO

付録 E. シリアル ATA ドライバのインストール (NF7-S)

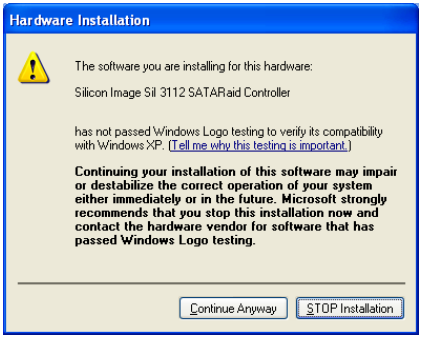
本項のインストール手順と画面ショットは、Windows XP オペレーティングシステムに基づいています。その他の OS のインストール手順と画面ショットについては、その OS のオンスクリーンの指示に従ってください。

ドライバとユーティリティ CD を CD-ROM ドライブに挿入すると、インストールプログラムが自動的に実行します。自動的に実行しない場合、この CD のルートディレクトリで実行ファイルをダブルクリックし、インストールメニューに入ってください。

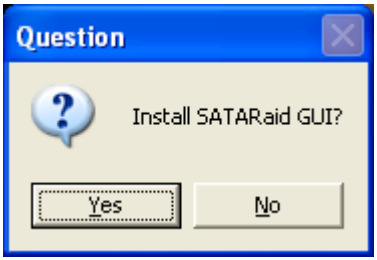
インストールメニューに入ったら、カーソルを[ドライバ]タブに移動します。[シリアル ATA ドライバ]をクリックしてください。次の画面が表示されます。



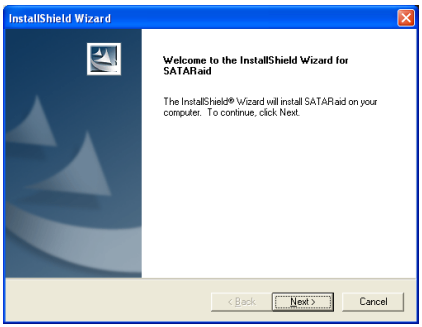
1. ［次へ］をクリックします。



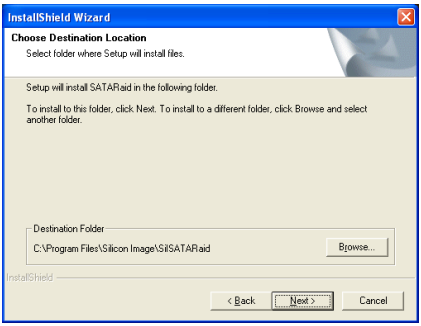
2. ［Continue Anyway］をクリックします。



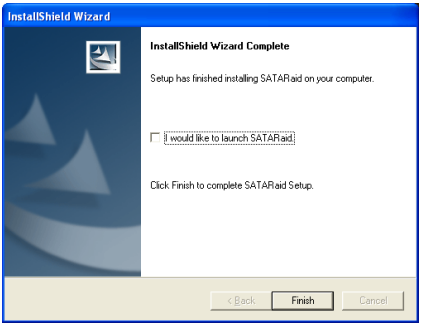
3. [はい]をクリックします。



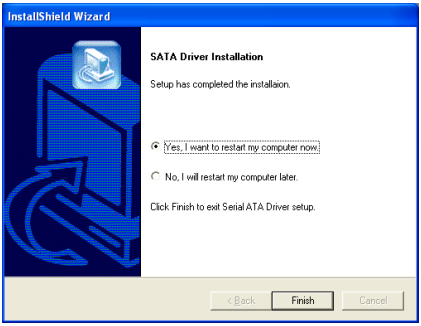
4. ［次へ］をクリックします。



5. ［次へ］をクリックします。

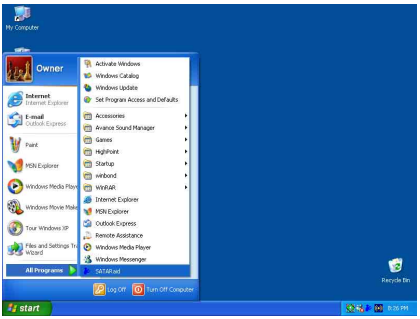


6. ［終了］をクリックします。

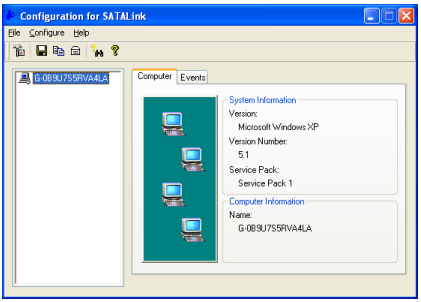


7. [はい、今コンピュータを再起動します]を選択し、[終了]をクリックしてインストールを終了します。

8. [デバイス マネージャ]にチェックマークを入れます。。[Silicon Image SiI 3112 SATARaid Controller]は、正常にアップグレードされました。



9. [SATARaid] アプリケーションを実行するには、[スタート] ➔ [プログラム] ➔ [SATARaid]をクリックします。



10. これは SATALink 構成メニューです。操作方法の詳細については、“ヘルプ”メニューを参照してください。

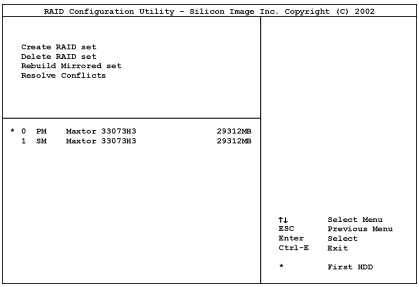
シリアル ATA RAID に対する BIOS のセットアップ

このマザーボードは Striped (RAID 0)と Mirrored (RAID 1) RAID セットをサポートします。Striped RAID セットの場合、同一のドライブはデータを同時に読み書きしてパフォーマンスを上げることができます。Mirrored RAID セットは、ファイルの完全なバックアップを作成します。Striped と Mirrored RAID セットは、このために 2 台のハードディスクを要求します。

RAID 構成ユーティリティメニュー

主メニュー

システムをリブートします。システムをブート中に<**CTRL**> + <**S**> または<**F4**>キーを押して BIOS 設定メニューに入ります。BIOS 設定ユーティリティのメインメニューが以下のように表示されます:



メニューのオプションを選択するには、次の操作を実行します:

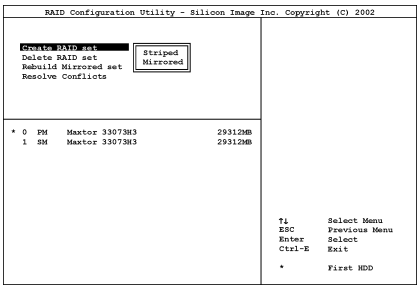
- <↑↓> (上、下矢印)を押して確認したいまたは修正したいオプションを選択します。
- <**Enter**> を押して選択を確認します。
- <**Esc**> を押して前のメニューに戻ります。
- <**Ctrl-E**> を押して RAID 構成ユーティリティを終了します。

注意：RAID0 (ストライピング) アレイを構成するときは、現在あるハードディスク上のデータが消えてしまいます。このため、RAID アレイの構築を行う前にデータのバックアップを行ってください。

RAID1 (ミラーリング) アレイを構築する場合は、どちらがデータのあるソースディスクで、どちらがバックアップを行うディスティネーションディスクであるかをよく確認してください。ここで間違えますと、二つのハードディスクには何もデータが書かれていないということが発生してしまいます。

オプション 1
RAID の作成

この項目で、RAID アレイを作成します。メインメニューで機能を選択した後 <Enter> キーを押すと、下のようなサブメニューに入ります。



- **Array Mode:**
  この項目により、希望するアレイに対して適切な RAID モードを選択することができます。4 つのモードが選択可能です。

注意：RAID の機能を得るには、同モデルのハードディスクを装着されるよう強くお勧めします。

Striping (RAID 0): 高性能を重視する場合はこのモードを推奨します。少なくとも２台のディスクが必要です。

Mirror (RAID 1): データセキュリティを重視する場合はこのモードを推奨します。少なくとも２台のディスクが必要です。

オプション 2
RAID セットの削除

シリアル ATA RAID コントローラカードの RAID アレイを削除できます。

注意：この選択を実行すると、ハードディスクに保存してあるデータはすべて失われます（パーティションの設定も削除されます）。

オプション 3
Mirrored セットの再構築

このアイテムによって、「**Mirrored**」 RAID セットのみを再構築することができます。

Mirrored RAID セットを再構築することを決定したら、再構築を行う前に、どのハードディスクがソースディスクでどのハードディスクが宛先ディスクであるかをチェックする必要があります。

オプション 4
競合の解決

RAID セットを作成するとき、ディスクに書き込まれたメタデータはドライブ接続情報を含みます(1 次チャネル、2 次チャネル)。

ディスクエラーの後、交換ディスクが RAID セットの以前の一部であった（または、他のシステムで使用されていた）場合、特にドライブ接続情報に関連して、メタデータと競合することがあります。その場合、RAID セットを作成または再構築できなくなります。

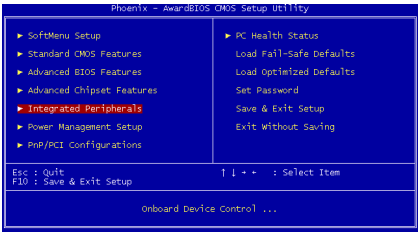
RAID セットが適切に機能するためには、まずこの古いメタデータを新しいメタデータで上書きする必要があります。これを解決するには、“競合の解決”を選択します。正しいメタデータはそれから、正しいドライブ接続情報を含み、交換ディスクに書き込まれます。

注意：RAID 機能の詳細については、このマザーボードに同梱された CD に入っている RAID 管理ソフトウェアを参照してください。

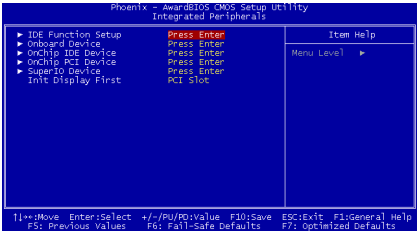
付録 F. NVRAID の BIOS セットアップ (NF7-S2/NF7-S2G)

NF7-S2/NF7-S2G は“**Striping**（ストライピング）(RAID 0)”、“**Mirroring**（ミラーリング）(RAID 1)”、“**Striping/Mirroring**（ストライピング/ミラーリング）(RAID0+1)”または“**JBOD/Spannning（JBOD/スパンニング）**”の RAID 動作に対応しています。Striped RAID セットの場合、同一のドライブはデータを同時に読み書きしてパフォーマンスを上げることができます。Mirrored RAID セットは、ファイルの完全なバックアップを作成します。Striped と Mirrored RAID セットは、このために 2 台のハードディスクを要求します。JBOD（スパンニング）動作はサイズの異なるドライブを 1 つの大きなディスクに結合させる能力を提供します。

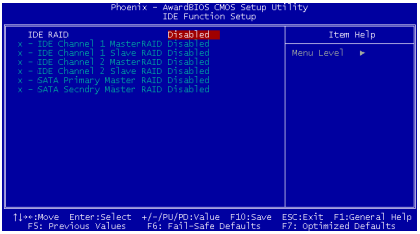
BIOS の設定



1. コンピュータを起動し、<Del> キーを押して BIOS セットアップのメインメニューに入ります。矢印キーを使って**統合周辺機器**を選択し、<Enter> キーを押してください。



2. 上記のように**統合周辺機器**のセットアップメニューが表示されます。矢印キーを使って **IDE 機能セットアップ**を選択し、<Enter> キーを押してください。



3. **IDE 機能セットアップ**メニューが表示されます。**IDE RAID** アイテムを有効にしてから、RAID ディスクとして使いたいディスクを有効にします。

4. <F10> キーを押して設定を保存し、BIOS セットアップメニューを終了します。

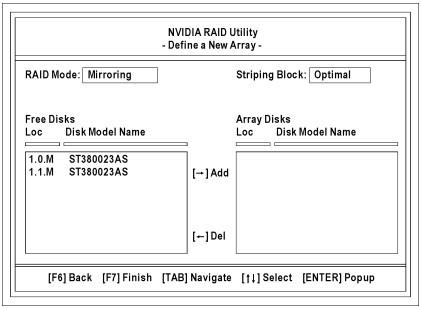
NVIDIA RAID ユーティリティメニュー

新しいアレイの定義

システムを再起動した後、RAID ソフトウェアのメッセージが表示されるのを待ち、<F10> キーを押してください。

RAID のメッセージは OS が立ち上がる前のシステム POST の一部として表示されます。画面が消えるまでの数秒間の間に <F10> キーを押してください。

<F10> キーを押すと、以下のように NVIDIA RAID ユーティリティの**新しいアレイの定義**というウィンドウが表示されます。



必要に応じて <Tab> キーを押し、項目を移動して適切な欄を選択してください。

RAID モードの選択

既定では RAID モードは*ミラーリング* に設定されています。別の RAID モードに変更する場合は、希望のモードが RAID モード欄に表示されるまで下矢印キー(<↓>) を押してください。選択肢はミラーリング、ストライピング、スパンニング、ストライピング/ミラーリングのいずれかです。

ストライピングのブロックサイズの選択

ストライピングのブロックサイズはディスク内でデータがどう配置されるかに影響します。この値を既定値の***最適化*** である 32K に設定しておくことをお勧めしますが、この値は 4KB～128KB の間で設定を変更することができます。

ディスクの割り当て

機能セットアップの BIOS メニューで有効に設定したディスクが**フリーディスク**ブロックに表示されます。これらは RAID アレイディスクとして使用可能なディスクです。

フリーディスクを RAID アレイディスクとして使用するには:

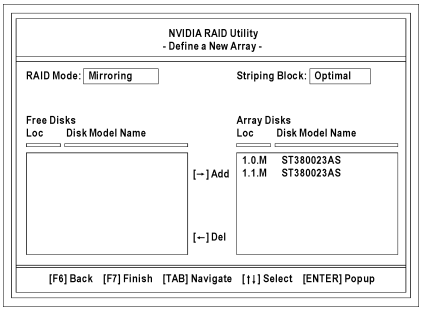
1. **フリーディスク**セクションのタブを選択します。リストにある最初のディスクが選択されます。

2. これを、矢印キー <→> を使って**フリーディスク**のブロックから**アレイディスク**へ移動します。

リストにある最初のディスクが移動され、リスト中の次にあるディスクが選択されて、移動できる状態になります。

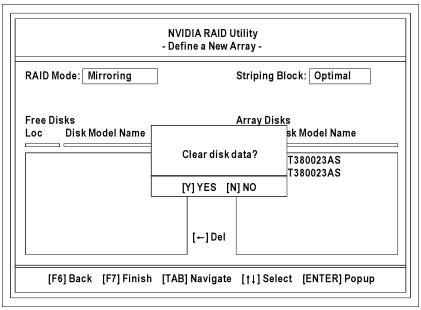
3. RAID アレイディスクとして使用するすべてのディスクがアレイディスクのブロックに移動するまで、右矢印キー <→> を押してください。

下図は、2 つのディスクが RAID1 アレイディスクとして割り当てられた後の**新しいアレイの定義**のウィンドウを示しています。



RAID BIOS セットアップの完了

RAID ディスクの割り当てが完了したら、<F7> キーを押してください。**ディスクデータのクリア**のメッセージが表示されます。



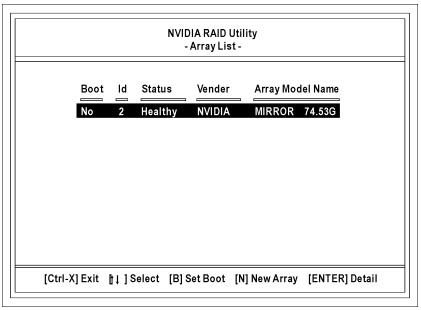
RAID アレイからすべてのデータを消去したい場合は〈Y〉キーを押し、そうでない場合は <N> キーを押します。ドライブが以前 RAID ドライブとして使われていた場合は、必ず **YES** を選択してください。

注意：RAID0 (ストライピング) アレイを構成するときは、現在あるハードディスク上のデータが消えてしまいます。このため、RAID アレイの構築を行う前にデータのバックアップを行ってください。

RAID1 (ミラーリング) アレイを構築する場合は、どちらがデータのあるソースディスクで、どちらがバックアップを行うディスティネーションディスクであるかをよく確認してください。ここで間違えますと、二つのハードディスクには何もデータが書かれていないということが発生してしまいます。

アレイリスト

アレイリストウィンドウが表示され、ここで先ほど設定した RAID アレイを見直します。



矢印キーを使って設定を行うアレイを選択し、<Enter> キーを押してください。

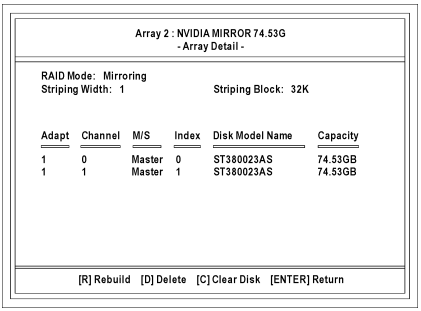
アレイの詳細

アレイの詳細ウィンドウには選択したアレイの詳細（ストライピングブロック使用、RAID モード、ストライピングの幅、ディスクモデル名、ディスク容量など）が表示されます。

このディスクを空にし、すべての内容を消去したい場合は <C> キーを押します。

メッセージが表示されたら <Y> キーを押してすべてのデータを消去します。消去しない場合は <N> キーを押します。

もう一度 <Enter> キーを押して先ほどのウィンドウに戻り、<F10> キーを押して RAID セットアップを終了します。



注意：イラストに示す情報は、ご利用のプラットフォームにより異なる場合があります。

MEMO

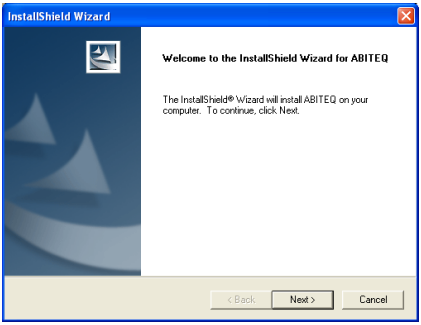
付録 G.　ABIT EQ（Hardware Doctor ユーティリティ）

ABIT EQ は、ABIT Computer 社により開発されたマザーボードに基づく PC の自己診断システムです。電圧やシステムファン速度、CPU およびシステム温度などの重要アイテムを監視することにより、PC ハードウェアを保護する役割を果たします。

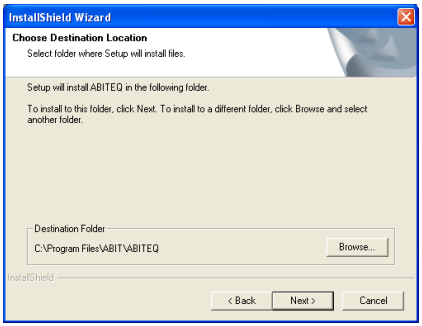
本項のインストール手順と画面ショットは、Windows XP オペレーティングシステムに基づいています。その他の OS のインストール手順と画面ショットについては、その OS のオンスクリーンの指示に従ってください。

ドライバとユーティリティ CD を CD-ROM ドライブに挿入すると、インストールプログラムが自動的に実行します。自動的に実行しない場合、この CD のルートディレクトリで実行ファイルをダブルクリックし、インストールメニューに入ってください。

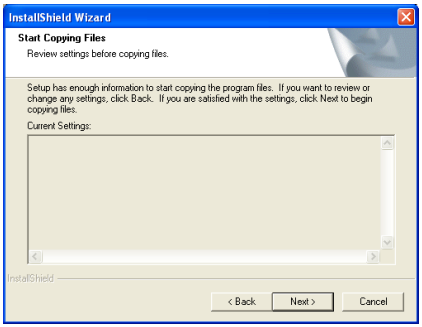
インストールメニューに入ったら、カーソルを[ABIT Utility]タブに移動します。[ABIT EQ]をクリックしてください。次の画面が表示されます。



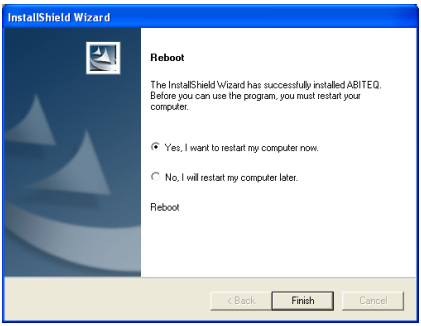
1.　［次へ>］をクリックします。



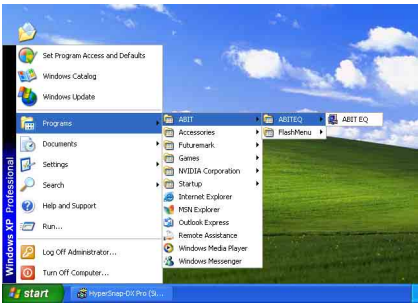
2.　［次へ>］をクリックします。



3.　［次へ>］をクリックします。



4. [はい、今コンピュータを再起動します]を選択し、[終了]をクリックしてインストールを終了します。



5. Windows ツールバーをポイントしてを ABIT EQ 実行し、［スタート］➔ ［プログラム］➔ ［ABIT］➔ ［ABIT EQ］を順にクリックします。

6. この画面が表示されます。ABIT EQ は、電圧、ファン速度、温度の読取りの状態も表示します。

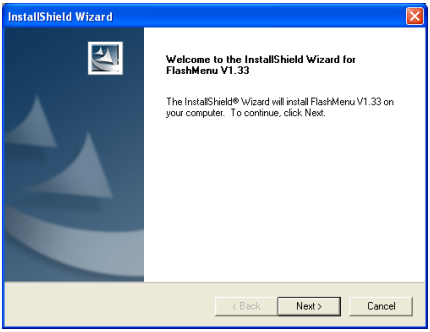
付録 H. FlashMenu（BIOS 更新ユーティリティ）

ABIT FlashMenu は最も安定性の高い Windows-based BIOS フラッシュです。クラッシュの心配はありません。BIOS 更新の 1 クリックで、より簡単に、手間をかけずに BIOS フラッシュを実行することができます。

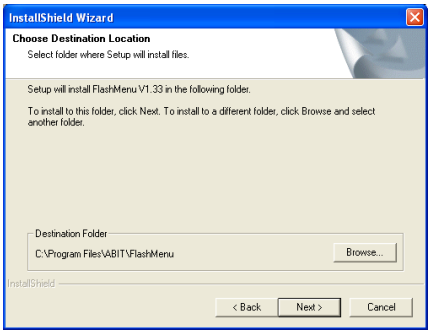
本項のインストール手順と画面ショットは、Windows XP オペレーティングシステムに基づいています。その他の OS のインストール手順と画面ショットについては、その OS のオンスクリーンの指示に従ってください。

ドライバとユーティリティ CD を CD-ROM ドライブに挿入すると、インストールプログラムが自動的に実行します。自動的に実行しない場合、この CD のルートディレクトリで実行ファイルをダブルクリックし、インストールメニューに入ってください。

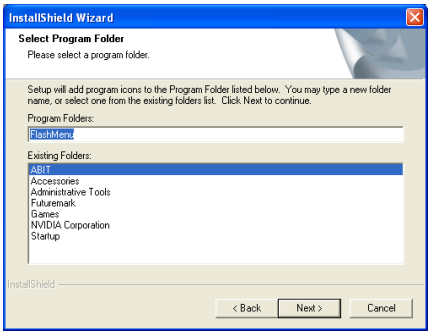
インストールメニューに入ったら、カーソルを [ABIT Utility] タブに移動します。[FlashMenu]をクリックしてください。次の画面が表示されます。



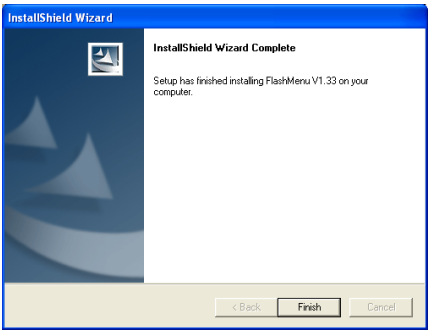
1. ［次へ>］をクリックします。



2. ［次へ>］をクリックします。



3. ［次へ>］をクリックします。



4. [終了]をクリックしてインストールを終了します。

5. Windows ツールバーをポイントしてを FlashMenu 実行し、［スタート］➔ ［プログラム］➔ ［ABIT］➔ ［FlashMenu］を順にクリックします。

6. このような FlashMenu 画面が表示されます。[Update From File]、[One Click LiveUpdate]、または [LiveUpdate Step by Step] ボタンをクリックして BIOS を簡単に更新することができます。

付録 I.　トラブルシューティング

Q & A:

Q: 新しい PC システムを組み立てるときに CMOS をクリアする必要がありますか?

A: はい、新しいマザーボードを装着する際に、CMOS をクリアすることを強くお薦めします。CMOS ジャンパをデフォルトの 1-2 のポジションから 2-3 のポジションに移し、2,3 秒待ち、そして元に戻してください。システムをはじめて起動するとき、ユーザーズマニュアルを参照し、Load Optimized Default を呼び込んでください。

Q: BIOS 更新中にハングアップしてしまったり、間違った CPU パラメータを設定してしまった場合にはどうしたらよいでしょうか?

A: BIOS 更新の失敗や、CPU パラメータ設定間違いによるシステムのハングアップするときは、常に CMOS クリアを行ってサイド起動させてみてください。

Q: BIOS 内部でオーバークロックまたは非標準の設定を試みると、システムを起動できず、画面に何も表示されません。メインボードが故障したのですか? メインボードを販売店に返却する必要がありますか、または RMA プロセスを行うべきですか?

A. 一部の BIOS 設定をデフォルトからオーバークロックまたは非標準の状態に変更しても、ハードウェアまたはメインボードが永久的に損傷する原因とはなりません。当社では、次の 3 つのトラブルシューティングによって CMOS データを放電し、ハードウェアのデフォルトの状態に回復するようにお勧めします。これにより、メインボードが再び機能し、ユーザーの方がわざわざメインボードをお買い上げ時点の設定に戻したり、RMA プロセスを実行する必要はなくなります。

1. 電源装置の電源をオフにし、1 分後に再びオンにします。電源がオンにならない場合、電源コードを抜いて 1 分後に差し込んでください。キーボードの<Insert>キーを押したまま、電源オンボタンを押してシステムを起動します。正常に起動したら、<Insert>キーを離し、<Delete>キーを押して BIOS セットアップページに入って正しい設定を行います。これでも問題が解決しない場合、ステップ 1 を 3 度繰り返すか、ステップ 2 を試みてください。

2. 電源装置の電源をオフにするか電源コードを抜いて、シャーシを開けます。電池の傍に CCMOS ジャンパがあります。ジャンパ位置をデフォルトの 1-2 から 2-3 に 1 分間変更して CMOS データを放電し、再びデフォルトの 1-2 に戻します。シャーシを閉じ、電源装置の電源をオンにするか、電源コードを差し込みます。電源オンボタンを押して、システムを起動します。正常に起動したら、<Delete>キーを押して BIOS セットアップページに入って、正しい設定を行います。それでも問題が解決しない場合、ステップ 3 を試みてください。

3. ステップ 2 と同じ手順で、メーンボードから ATX 電源コネクタを抜き、CMOS が放電している間にメインボードの電池を取り外します。

Q: テクニカルサポートからの迅速な回答をえるにはどうしたらよいですか?

A: このマニュアルの章にある、テクニカルサポートフォームの記述内容に従って記述してください。

動作に問題がある場合、弊社のテクニカルサポートチームが問題をすばやく特定して適切なアドバイスができるよう、テクニカルサポート用紙には、問題に関係のない周辺機器を記入せずに、重要な周辺機器のみを記入してください。記入後は、テクニカルサポートから回答を得られるよう、製品を購入したディーラーまたは販売店に Fax してください（下の例を参照してください）。

例 1： マザーボード（CPU, DRAM, COAST などを含む）、HDD、CD-ROM、FDD、VGA CARD、VGA カード、MPEG カード、SCSI カード、サウンドカードなどを含むシステムが起動できない場合、以下の手順に従ってシステムの主なコンポーネントをチェックしてください。最初に、VGA カード以外のすべてのインタフェースカードを取り外して再起動してください。

それでも起動しない場合：
他のブランドまたはモデルの VGA カードをインストールして、システムが起動するかどうか試してみてください。それでも起動しない場合は、テクニカルサポート用紙（主な注意事項参照）に VGA カードのモデル名、マザーボードのモデル名、BIOS の ID 番号、CPU の種類を記入し、“**問題の説明**”欄に問題についての詳しい説明を記入してください。

起動する場合：
取り除いたインタフェースカードを 1 つ 1 つ元に戻しながら、システムが起動しなくなるまでシステムの起動をチェックしてください。VGA カードと問題の原因となったインタフェースカードを残して、その他のカードおよび周辺機器を取り外して、システムを再び起動してください。それでも起動しない場合、"その他のカード"の欄に 2 枚のカードに関する情報を記入してください。なお、マザーボードのモデル名、バージョン、BIOS の ID 番号、CPU の種類（主な注意事項参照）、およびを問題についての詳しい説明を記入するのを忘れないでください。

例 2： マザーボード（CPU, DRAM, COAST などを含む）、HDD、CD-ROM、FDD、VGA カード、LAN カード、MPEG カード、SCSI カード、サウンドカードなどを含むシステムで、サウンドカードのドライバのインストール後、システムを再起動したり、サウンドカードのドライバを実行したりすると自動的にリセットしてしまう場合、問題はサウンドカードのドライバにあるかもしれません。DOS の起動の途中で、SHIFT キーを押して CONFIG.SYS と AUTOEXEC.BAT を省略してください。また、テキストエディタで CONFIG.SYS を修正してください。サウンドカードのドライバをロードする行にリマーク REM を追加すると、サウンドカードのドライバを OFF にできます。下の例をご覧ください。

CONFIG.SYS:
DEVICE=C:\DOS\HIMEM.SYS
DEVICE=C:\DOS\EMM386.EXE HIGHSCAN
DOS=HIGH, UMB
FILES=40
BUFFERS=36
REM DEVICEHIGH=C:\PLUGPLAY\DWCFGMG.SYS
LASTDRIVE=Z

システムを再起動してみてください。システムが起動してリセットしない場合、問題はサウンドカードのドライバにあることがわかります。テクニカルサポート用紙（主な注意事項参照）にサウンドカードのモデル名、マザーボードのモデル名、BIOS の ID 番号を記入し、" 問題の説明"欄に詳しい説明を記入してください。

テクニカルサポートフォームの記述の仕方について説明します。

<u>主な注事項...</u>

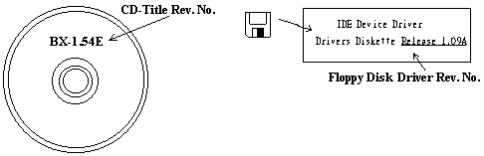
［テクニカルサポート用紙］に必要事項を記入する場合、次の注事項を守ってください。

1*. モデル名：ユーザーマニュアルに記されているモデル名を記入します。
例：NF7/NF7-M/NF7-S/NF7-S2/NF7-S2G

2*. マザーボードのモデル番号（REV）：マザーボードに［REV:*.** ］と記されているマザーボードのモデル番号を記入してください。
例：REV: 1.00

3*. BIOS ID および部品番号：オンスクリーンのメッセージをご覧ください。

4. ドライババージョン：デバイスドライバのディスク（もしあれば）に［Release *.**”］などと記されているバージョン番号を記入します。



5*. OS／アプリケーション：使用しているOSおよびシステムで起動しているアプリケーションを記入します。
例：MS-DOS® 6.22、Windows® 95、Windows® NT....

6*. CPU：CPUのメーカー名および速度（MHz）を記入します。
例：（A）［メーカー名］の欄には［Intel］、［仕様］の欄には［Pentium® 4 1.9GHz］と記入します。

7. HDD：HDDのメーカー名、仕様、☐IDE1および☐IDE2のどちらで使用しているかを記入します。ディスク容量がわかる場合には容量を記入し、［☐］をチェック（“✓”）してください。チェックがない場合は、［☑IDE1］マスターとみなします。
例:［HDD］の蘭のボックスをチェックし、メーカー名には［Seagate］、仕様の欄には［ST31621A（1.6GB）］と記入します。

8. CD-ROMドライブ：CD-ROMドライブのメーカー名、仕様、☐IDE1および☐IDE2のどちらで使用しているかを記入します。また、“☐”をチェック（“✓”）してください。チェックがない場合は、“☑IDE2”マスターとみなします。
例：“CD-ROMドライブ”の欄のボックスをチェックし、メーカー名には“Mitsumi”、仕様の欄には“FX-400D”と記入します。

9. システムメモリ（DDR SDRAM): システムメモリのブランドと、密度、説明、モジュールコンポーネント、モジュール部品番号、CASレイテンシ、速度（MHz)のような、仕様（DDR DIMM）を示します。たとえば、ブランドスペースに、「Micron」と記述し、仕様スペースに以下のように記述します。
密度: 128MB、説明: SS 16 Megx72 2.5V ECC ゴールド、モジュールコンポーネント: (9) 16 Megx 8、モジュール部品番号: MT9VDDT1672AG、CAS レイテンシ: 2、速度（MHz): 200 MHz.
お使いの DDR SDRAM の詳細な情報をお知らせください。発生した問題をシミュレートする上で大いに役に立ちます。

10. その他のカード：問題に関係しているのが“絶対確実である”カードを記入します。
問題の原因が特定できない場合は、システムに搭載しているすべてのカードを記入してください。

注意：［*］の項目は必ず記入してください。

テクニカルサポート用紙

会社名：　　電話番号：

連絡先：　　ファックス番号：

E-mail：

モデル名	*	BIOS ID #	*
マザーボードの モデル番号		ドライババージョン	
OS／アプリケーション	*		
ハードウェア名	メーカー名	仕様	
CPU	*		
HDD ☐IDE1 ☐IDE2			
CD-ROM ドライブ ☐IDE1 ☐IDE2			
システムメモリ (DRAM)			
その他のカード			

問題の説明：

付録 J.　テクニカルサポートの受け方について

（ホームページ）http://www.abit.com.tw
（米国）http://www.abit-usa.com
（ヨーロッパ）http://www.abit.nl

ABIT 社の製品をお買い上げいただきありがとうございます。ABIT はディストリビュータ、リセラー、システムインテグレータを通じて製品を販売させていただいておりますため、エンドユーザの皆様に直接製品を販売することはありません。弊社テクニカルサポート部へお問い合わせいただく前に、お客様のシステムを構築したリセラーかシステムインテグレータにお問い合わせいただく方が、より適切なアドバイスを受けることができます。

ABIT ではお客様に常に最高のサービスを提供したいと願っております。弊社はお客様への迅速な対応を最優先に考えておりますが、毎日世界各国からの電話や電子メールによる問い合わせが殺到しておりますため、すべてのご質問にお答えすることができない状況です。したがいまして、電子メールでお問い合わせいただきましてもご返答できない場合がありますので、あらかじめご了承いただきますようお願い申し上げます。

ABIT は最高の品質と互換性の高い製品を提供するために、互換性や信頼性に関するテストを重ねております。万一サービスやテクニカルサポートが必要となりました場合には、**まずリセラーかシステムインテグレータにお問い合わせください。**

できるだけ早く問題を解決するために、以下に説明します処理を行ってみてください。それでも問題を解決できない場合には、弊社のテクニカルサポートへお問い合わせください。より多くのお客様に、より質の高いサービスを提供するために、皆様のご協力をお願いします。

1. **マニュアルをお読みください。**マニュアルの作成には万全の注を払っい、どなたにもお分かりいただけるように説明してあります。意外と簡単なことを見落としている場合もありますので、再度マニュアルをよくお読みください。マニュアルにはマザーボード以外についても重要な情報が記載されています。マザーボードに同梱されている CD-ROM には、ドライバのほかにマニュアルの電子ファイルも格納されています。必要であれば、弊社の Web サイトまたは FTP サーバより、ファイルをダウンロードすることもできます。

2. **最新の BIOS、ソフトウェア、ドライバをダウンロードしてください。**弊社の Web サイトをご覧になり、バグや互換性に関わる問題が修正された最新バージョンの BIOS をダウンロードしてください。**また周辺機器のメーカーにお問い合わせになり、最新バージョンのドライバをインストールしてください。**

3. **Web サイト上の専門用語集および FAQ（よく聞かれる質問）をお読みください。**弊社では今後も引き続き FAQ を充実させていく予定です。皆様のご意見をお待ちいたしております。また新しいトピックにつきましては、HOT FAQ をご覧ください。

4. **インターネットニュースグループをご利用ください。**ここには貴重な情報が数多く寄せられます。ABIT Internet News グループ（alt.comp.periphs.mainboard.abit）はユーザどうしで情報を交換したり、それぞれの経験を語り合ったりするために設置されたフォーラムです。たいていの場合、知りたい情報はこのニュースグループ上にすでに記載されています。これは一般に公開されているインターネットニュースグループであり、無料で参加することができます。ほかにも次のようなニュースグループがあります。

   alt.comp.periphs.mainboard.abit
   alt.comp.periphs.mainboard
   comp.sys.ibm.pc.hardware.chips
   alt.comp.hardware.overclocking
   alt.comp.hardware.homebuilt
   alt.comp.hardware.pc-homebuilt

5. **リセラーへお問い合わせください。**技術的な問題につきましては、ABIT が認定したディストリビュータにお尋ねください。弊社の製品はディストリビュータからリセラーや小売店へ配送されます。リセラーはお客様のシステムの構成内容をよく理解していますので、お客様が抱える問題をより効率よく解決できるはずです。お客様が受けられるサービス内容によって、お客様が今後もそのリセラーと取り引きを続けていきたいかどうかを判断する材料にもなります。万一問題を解決できない場合は、状況に応じて何らかの対応策が用意されているはずです。詳しくはリセラーにお尋ねください。

6. **ABIT へお問い合わせください。**ABIT へ直接お尋ねになりたいことがございましたら、テクニカルサポート部へ電子メールをお送りください。まず、お近くの ABIT 支店のサポートチームにお問い合わせください。地域の状況や問題、またリセラーがどのような製品とサービスを提供しているかは、地域により全く異なります。ABIT 本社には毎日世界各国から膨大な量の問い合わせが殺到しておりますため、すべてのお客様のご質問にお答えすることができない状況です。弊社ではディストリビュータを通じて製品を販売いたしておりますため、すべてのエンドユーザの皆様にサービスを提供することができません。何卒ご理解を賜りますようお願い申し上げます。また、弊社のテクニカルサポート部に質問をお寄せになる際は、問題点を英語でできるだけ分かりやすく、簡潔に記載していただき、必ずシステム構成部品のリストしてください。お問い合わせ先は次の通りです。

北米、南米	***ABIT Computer (U.S.A.) Corporation*** 45531 Northport Loop West, Fremont CA, 94538, U.S.A. 電話: 1-510-623-0500 ファックス: 1-510-623-1092 営業: sales@abit-usa.com 南米営業: ventas@abit-usa.com マーケティング: marketing@abit-usa.com ウェブサイト: http://www.abit-usa.com
RMA センター	46808 Lakeview Blvd. Fremont, CA 94538, U.S.A.
英国、アイルランド	***ABIT Computer (U.K.) Corporation Ltd.*** Unit 3, 24-26 Boulton Road, Stevenage, Herts SG1 4QX, UK 電話: 44-1438-228888 ファックス: 44-1438-226333 電子メール: sales@abitcomputer.co.uk
ドイツ、ベネルクス（ベルギー、オランダ、ルクセンブルク）、フランス、イタリア、スペイン、ポルトガル、ギリシャ、デンマーク、ノルウェー、スウェーデン、フィンランド、スイス	***AMOR Computer B.V. (ABIT's European Office)*** Jan van Riebeeckweg 15, 5928LG, Venlo, The Netherlands 電話: 31-77-3204428 ファックス: 31-77-3204420 営業: sales@abit.nl ウェブサイト: http://www.abit.nl
オーストリア、チェコ、ルーマニア、ブルガリア、スロバキア、クロアチア、ボスニア、セルビア、マケドニア	***Asguard Computer Ges.m.b.H*** Schmalbachstrasse 5, A-2201 Gerasdorf / Wien, Austria 電話: 43-1-7346709 ファックス: 43-1-7346713 電子メール: asguard@asguard.at
上海	***ABIT Computer (Shanghai) Co. Ltd.*** 電話: 86-21-6235-1829 ファックス: 86-21-6235-1832 ウェブサイト: http://www.abit.com.cn
ロシア、CIS	***ABIT Computer (Russia) Co. Ltd.*** 営業: sales@abit.ru Info: info@abit.ru ウェブサイト: http://www.abit.ru

ポーランド	***ABIT Computer (Poland) Co. Ltd.*** Przedstawicielstwo w Polsce ul. Wita Stwosza 28, 50-149 Wrocław 電話: 48 71 780 78 65 / 66 ファックス: 48 71 372 30 87
日本	ウェブサイト: http://www.abit4u.jp
台湾本社 *(上記以外の地域へのサービス台湾は 8+ GMT 時間でお客様の地域とは休日が異なる可能性があります。)*	***ABIT Computer Corporation*** No. 323, Yang Guang St., Neihu, Taipei, 114, Taiwan 電話: 886-2-8751-8888 ファックス: 886-2-8751-3382 営業: sales@abit.com.tw マーケティング: market@abit.com.tw ウェブサイト: http://www.abit.com.tw

7. **RMA サービスについて。**新しくソフトウェアやハードウェアを追加していないのに、今まで動いていたシステムが突然動かなくなった場合は、コンポーネントの故障が考えられます。このような場合は、製品を購入されたリセラーにお問い合わせください。RMA サービスを受けることができます。

8. **互換性に関する問題がある場合は ABIT へご一報ください。**弊社に寄せられるさまざまな質問の中でも ABIT が特に重視しているタイプの質問があります。互換性に関する問題もその 1 つです。互換性がないために問題が発生していると思われる場合は、システムの構成内容、エラーの状態をできるだけ詳しくお書きください。その他のご質問につきましては、申し訳ございませんが直接お答えできない場合があります。お客様がお知りになりたい情報は、インターネットニュースグループにポストされていることがありますので、定期的にニュースグループをお読みください。

ありがとうございました。

ABIT Computer Corporation

http://www.abit.com.tw